

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月21日
【発行者名】	パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 白勢 菊夫
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル
【事務連絡者氏名】	小林 徹也
【電話番号】	03（5208）5947
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	パインブリッジ新成長国債インカムオープン
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	3,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当なし

## 第一部【証券情報】

### （１）【ファンドの名称】

パインブリッジ新成長国債インカムオープン

（以下「ファンド」または「当ファンド」ということがあります。）

愛称として「レインボーシート」という名称を使用する場合があります。

### （２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の受益権です。

当初元本は1口当たり1円です。

当ファンドについて、委託会社の依頼により、信用格付業者から提供されもしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供されもしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、「社債、株式等の振替に関する法律」（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）委託会社であるパインブリッジ・インベストメンツ株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

### （３）【発行（売出）価額の総額】

3,000億円を上限とします。

前記金額には、申込手数料（当該手数料にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する額を含みます。以下同じ。）は、含まれません。

### （４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

基準価額については、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.pinebridge.co.jp/>

基準価額とは、純資産総額（信託財産の資産総額から負債総額を控除した額）を計算日における受益権総口数で除して得た額で、当ファンドにおいては1万口当たりの価額で表示されます。

### （５）【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、2.2%（税抜2.0%）の率を乗じて得た額を上限として、販売会社が独自に定めるものとします。

なお、収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

### （６）【申込単位】

収益分配金の受取方法により、収益分配金を受取る「分配金受取りコース」と収益分配金を税引き後に自動的に再投資する「分配金再投資コース」の2つの申込コースがあります。取得申込時にいずれかのコースを選択いただきます。なお、原則として、取得申込手続完了後の申込コースの変更はできません。

<分配金受取りコース> 1万円以上1円単位

< 分配金再投資コース > 1万円以上1円単位

ただし、収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

#### (7) 【申込期間】

2020年2月22日（土）から2021年2月24日（水）まで

取得申込日がロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合には、取得申込の受付を行いません。

申込期間は、当該期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

#### (8) 【申込取扱場所】

申込取扱場所（以下「販売会社」ということがあります。）については、委託会社の照会先までお問い合わせください。

#### (9) 【払込期日】

取得申込者は、販売会社が定める期日までに、申込金額を販売会社に支払うものとします。

取得申込にかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

申込金額とは、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に取得申込口数を乗じて得た額に申込手数料を加えた額をいいます。

#### (10) 【払込取扱場所】

申込金額は、取得申込をした販売会社にお支払いください。

#### (11) 【振替機関に関する事項】

振替機関：株式会社証券保管振替機構

#### (12) 【その他】

受益権の取得申込は、販売会社において、原則として、申込期間中の毎営業日に受付けます。ただし、取得申込日がロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合には、取得申込の受付を行いません。取得申込の受付は、原則として、午後3時までとします。この受付時間を過ぎてからの取得申込は翌営業日の受付となります。なお、受付時間は販売会社が定めますので異なる場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

運用の基本方針等の観点から受益者にとって不利益と判断する場合には、委託会社の判断で取得申込を受付けない場合があります。また、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、受益権の取得申込の受付を中止すること、およびすでに受付けた取得申込を取消することができます。

取得申込者（すでに取引口座をお持ちの方を除きます。）は、販売会社において取引口座を開設のうえ、取得申込を行うものとします。

分配金再投資コースを選択した取得申込者は、販売会社との間で「累積投資約款」にしたがい、収益分配金の再投資に関する契約（以下「累積投資契約」または「別に定める契約」ということがあります。）を締結する必要があります。（販売会社によっては、前記契約と同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定が用いられることがあります。）

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### （1）【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

主として「パインブリッジ新成長国債券マザーファンド」および「パインブリッジ新成長国債券マザーファンド」を通じて、新成長国が発行した米国ドル建て/ユーロ建て、および現地通貨建ての国債等に投資することにより、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

ファンドの基本的性格

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類・属性区分において、以下のように分類されます。

##### <商品分類表>

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信
		その他資産（ ）
		資産複合

（注）当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

##### <属性区分表>

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性（ ）	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリー ファンド	あり（ ）
	年6回 （隔月）	欧州		
不動産投信	年12回 （毎月）	アジア		
その他資産 （投資信託証券（債券 一般））	日々	オセアニア	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし
資産複合（ ） 資産配分固定型 資産配分変更型	その他 （ ）	中南米		
		アフリカ		
		中近東（中東）		
		エマージング		

（注）当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

##### <商品分類・属性区分の定義>

- ・追加型投信...一度設定されたファンドであっても、その後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンド
- ・海外...目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるもの

- ・債券...目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるもの
- ・その他資産（投資信託証券（債券 一般））...目論見書または信託約款において、投資信託証券への投資を通じて、実質的に債券（債券 一般...公債、社債、その他債券の属性区分にあてはまらないすべてのもの）に主として投資する旨の記載があるもの
- ・年6回（隔月）...目論見書または信託約款において、年6回（隔月）決算する旨の記載があるもの
- ・エマージング...目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるもの
- ・ファミリーファンド...目論見書または信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するもの
- ・為替ヘッジなし...目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないもの  
属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。  
商品分類・属性区分の定義の詳細につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp>）をご参照ください。

### ファンドの特色

1. 「パインブリッジ新成長国債券マザーファンド」および「パインブリッジ新成長国債券マザーファンド」を主要投資対象とし、利子収入（インカム・ゲイン）の安定的な確保を目指しながら値上がり益も追求します。

当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

<ファミリーファンド方式とは>

受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みをいいます。



※マザーファンドは、他のベビーファンドが共有することがあります。

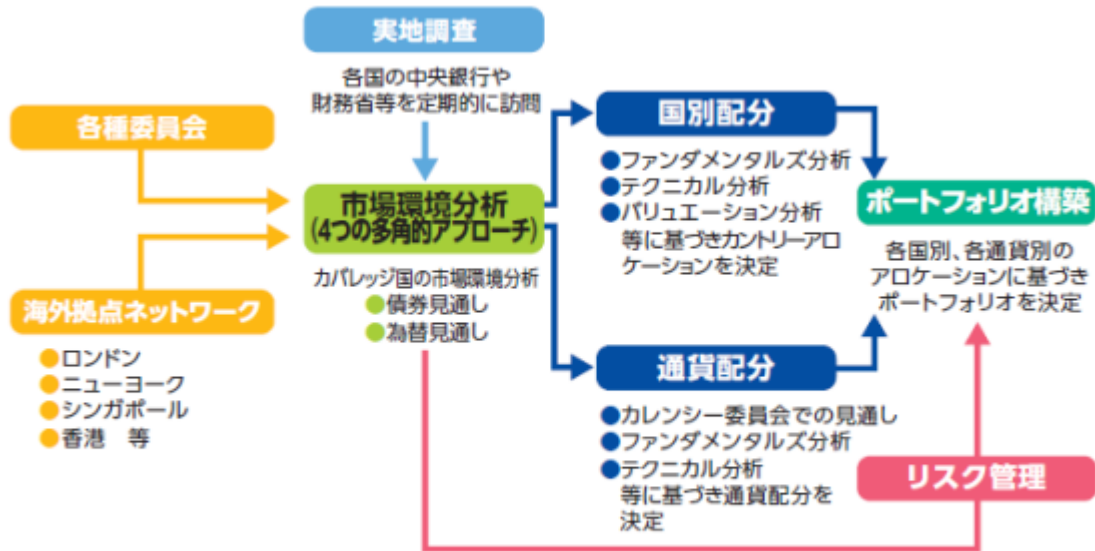
「パインブリッジ新成長国債券マザーファンド」は、米国ドル建て/ユーロ建ての新成長国債券を主要投資対象とし、安定的なインカム収入の確保と中長期的な資産の成長を目指します。

「パインブリッジ新成長国債券マザーファンド」は、現地通貨建ての新成長国債券およびそれと同等の価値を有する現地通貨建て国債連動債（クレジット・リンク・ノート：CLN）を主要投資対象とし、安定的なインカム収入の確保と中長期的な資産の成長を目指します。

#### クレジット・リンク・ノート(CLN)とは

投資の主対象である企業または債券の信用リスクを、別の債券の信用に結びつけたものです。当ファンドの投資対象であるCLNは、原則として、CLNの発行体である金融機関が現地通貨建ての新成長国債等を購入し、そこから得られる収益をCLNを通じて還元する仕組みです。CLNに投資することにより、ファンドが直接投資できない国や投資が困難な国への投資が可能となるとともに、現地通貨建ての新成長国債等に投資するのと同様の投資効果が期待できます。

2. 実質投資対象となる新成長国の分散を図り、カントリーリスクをコントロールします。また、米国ドル建て/ユーロ建て債と現地通貨建て債の利回り格差、および現地通貨の信頼性等を独自の手法で分析し、国別、通貨別アロケーションを決定します。



※4つの多角的アプローチとは、「グローバルアクセス」、「ファンダメンタルズ分析」、「テクニカル分析」および「バリュエーション分析」を指します。

#### 運用プロセス

マザーファンドでは、4つの多角的アプローチから運用を行うことで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

- ・4つの多角的アプローチを用いて投資対象国の市場環境の分析を行い、その結果に基づいて国別配分、通貨配分を決定します。
- ・「PineBridge Investments」の海外拠点ネットワーク、各種委員会、実地調査をもとに、4つの多角的アプローチから市場環境分析が行われ、国別配分や通貨配分を決定し、これらに基づきポートフォリオが構築されます。

前記の運用プロセス等は、今後変更することがあります。

3. 実質組入れの外貨建て資産については、原則として、為替ヘッジを行いません。
4. 実際の運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド (PineBridge Investments Europe Ltd.) に外貨建て資産の運用の指図に関する権限を委託します。パインブリッジ・インベストメンツ (委託会社) が属するPineBridge Investments は、ニューヨークに本部を置くグローバルな資産運用グループです。世界各地の拠点で投資チーム・顧客サービスチームのプロフェッショナルが、世界中に広がるネットワークを活用し、資産の運用管理に専念しております。
5. 原則として、奇数月 (1・3・5・7・9・11月) の25日 (休業日の場合は翌営業日) に決算を行い、基準価額の水準等を勘案して分配を行います。なお、将来の分配金が保証されているものではなく、分配対象額が少額の場合等、分配を行わないことがあります。



上記はイメージ図であり、将来の分配金のお支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。



## 新成長国債券市場の特徴



※JPモルガン社のEMBIグローバル・ディバーシファイド指数およびGBI-EMブロード・ディバーシファイド指数の構成国。(2019年12月末現在)  
 ※当ファンドは、上記の国以外に投資をすることがあります。また、上記の国のすべてに投資するとは限りません。

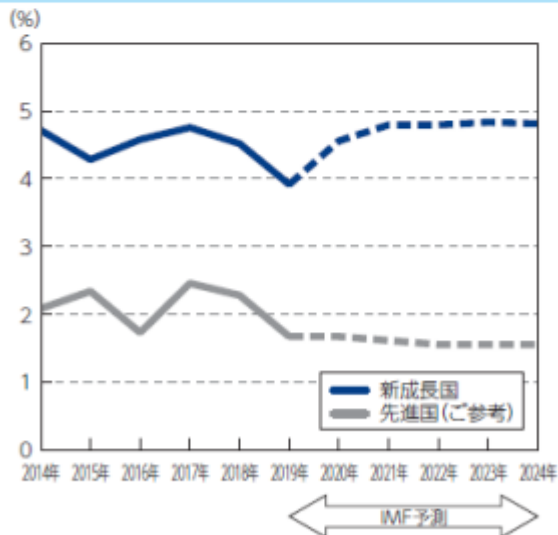
## 世界の牽引役となる新成長国経済

- 一般的に先進国よりも高い経済成長力を有しており、今後とも高い成長が持続すると期待されます。

## 新成長国債の魅力的な利回り

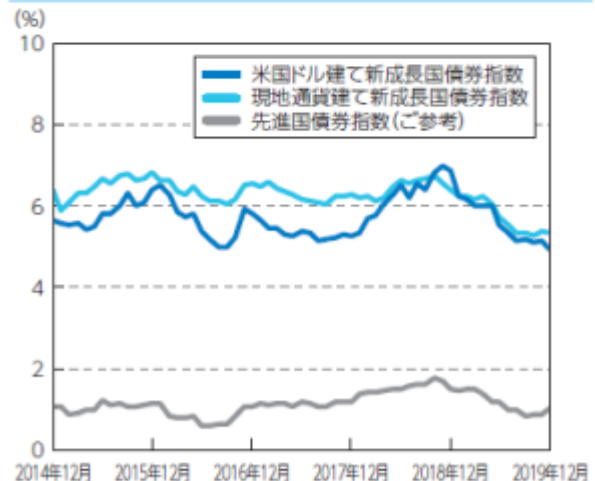
- 一般的に先進国債よりも高い利回りが期待されます。

## GDP成長率の推移と予測



※出所：国際通貨基金(IMF)2019年10月  
 ※先進国はIMFが定義する“Advanced economies”、新成長国はIMFが定義する“Emerging market and developing economies”を指します。(2014年から2024年。2019年から2024年は予測値。)

## 新成長国債の利回り推移



※出所：ブルームバーグ(2014年12月末から2019年12月末、月次ベース)  
 ※上記の米国ドル建て新成長国債券指数はJPモルガン社EMBIグローバル・ディバーシファイド指数、現地通貨建て新成長国債券指数はJPモルガン社GBI-EMブロード・ディバーシファイド指数、先進国債券指数はFTSE世界国債インデックスの最終利回りを示しています。

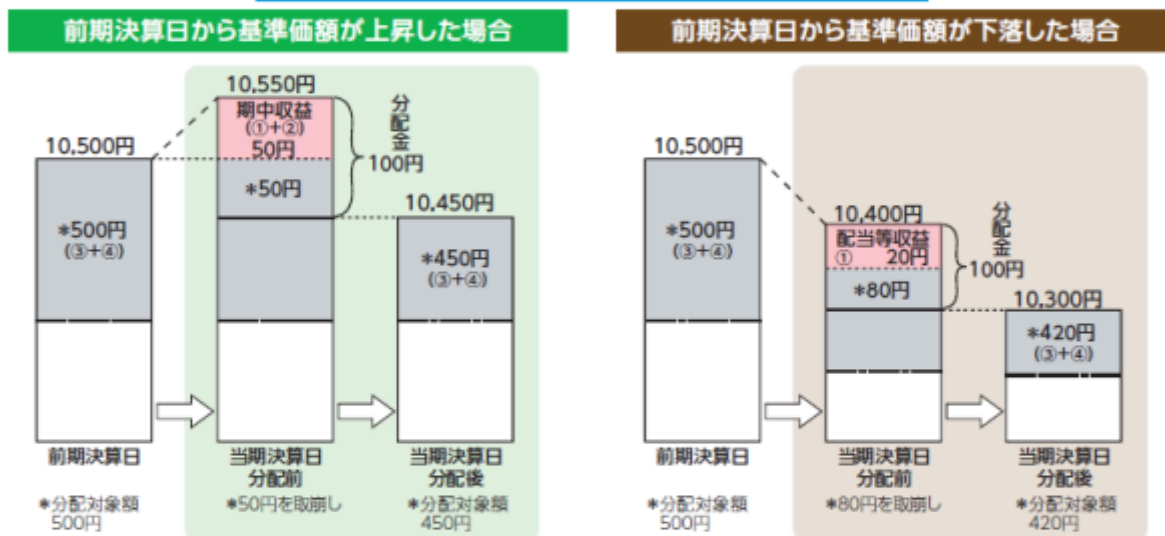
## 収益分配金に関する留意事項

- 収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



- 収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

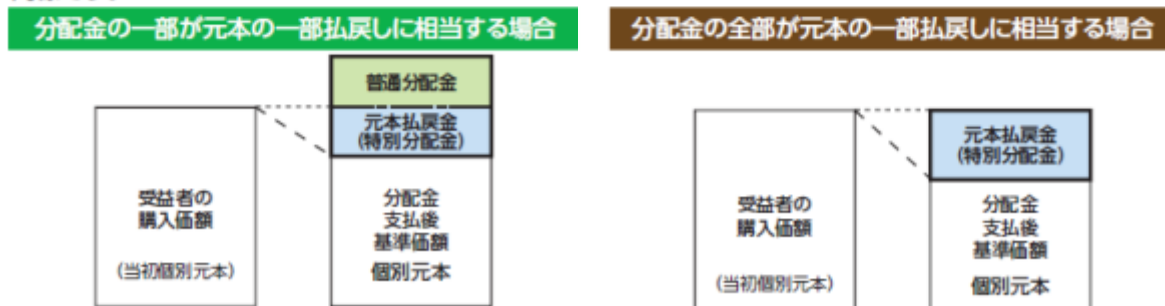
### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

## 信託金限度額

3,000億円を限度として信託金を追加することができます。

ただし、委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

## (2) 【ファンドの沿革】

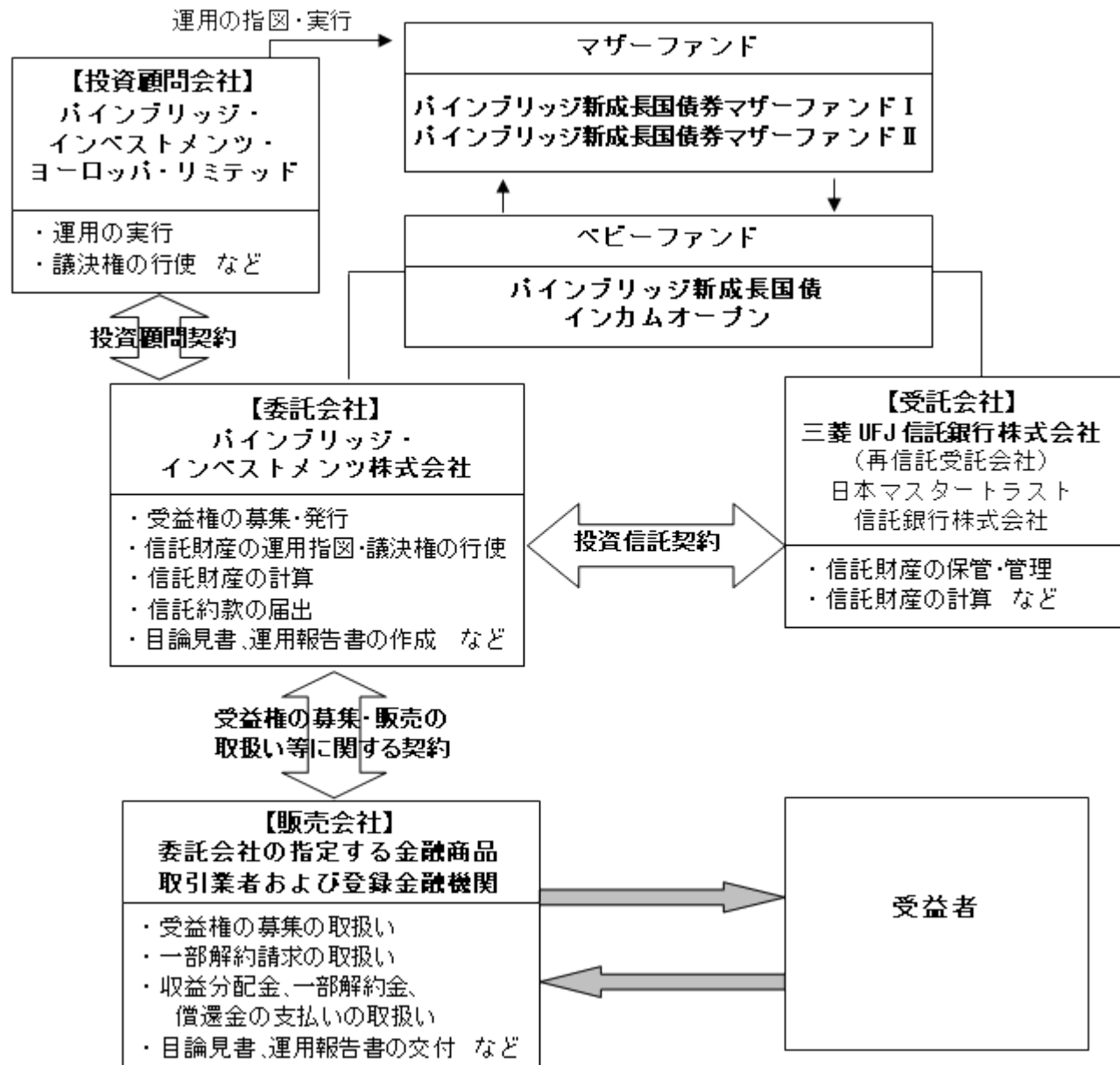
2005年12月28日 ファンドの信託契約締結、設定、運用開始

2009年12月 1日 ファンドの名称変更（「AIG新成長国債インカムオープン」から「パインブリッジ新成長国債インカムオープン」に変更。）



### （３）【ファンドの仕組み】

#### ファンドの仕組み



投資信託契約とは、投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社との間で規定したもので、信託財産の運用や管理・運営方法、委託会社と受託会社および受益者の権利義務関係、募集および換金方法等の取り決め等が定められています。

受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約とは、委託会社と販売会社との間で締結された契約で、販売会社の行う受益権の募集、一部解約請求、収益分配金および償還金の支払い等の取扱い等が規定されています。

投資顧問契約とは、委託会社と委託会社が信託財産の運用にかかる指図権を委託するものとの間に締結する契約で、信託財産の運用委託権限の範囲、議決権の行使、発注権限、運用状況の報告内容、報酬等が定められています。

#### 委託会社の概況

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社は、世界各地に拠点を持つグローバルな資産運用グループ「PineBridge Investments」の一員として、主に個人投資家に対する投資信託業務と年金基金・機関投資家等に対する投資一任・助言業務を展開しております。

- ・ 資本金の額 1,000,000,000円（2019年12月末日現在）
- ・ 会社の沿革

- 1986年11月 当社の前身であるエーアイジー・オーバーシーズ・ファイナンス・ジャパン株式会社設立。
- 1987年 1月 エイアイジー投資顧問株式会社に商号変更。
- 1997年 2月 エイミック投信投資顧問株式会社に商号変更。
- 2001年 7月 エイアイジー投信投資顧問株式会社に商号変更。
- 2002年 4月 株式会社千代田投資顧問と合併。
- 2007年 4月 AIGインベストメントマネジメント投資顧問株式会社との事業統合。
- 2008年 4月 AIGインベストメンツ株式会社に商号変更。
- 2008年 5月 エイアイジー・ジャパン・セキュリティーズ・インク（AIG日本証券会社）との事業統合。
- 2009年12月 パインブリッジ・インベストメンツ株式会社に商号変更。

・大株主の状況（2019年12月末日現在）

株主名	住所	持株数	持株比率
PineBridge Investments Holdings B.V.	Prins Bernhardplein 200 1097 JB Amsterdam The Netherlands	42,000株	100%

- ・当社が属するPineBridge Investmentsは、ニューヨークに本部を置くグローバルな資産運用グループです。世界各地の拠点で投資チーム・顧客サービスチームのプロフェッショナルが、世界中に広がるネットワークを活用し、資産の運用管理に専念しております。

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

#### 基本方針

主としてパインブリッジ新成長国債券マザーファンドを通じて、新成長国が発行した米国ドル建ておよびユーロ建ての国債に、またパインブリッジ新成長国債券マザーファンドを通じて、新成長国が発行した現地通貨建ての国債等に投資することにより、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

#### 運用方法

1. パインブリッジ新成長国債券マザーファンド、パインブリッジ新成長国債券マザーファンド（以下、総称して「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドへの投資を通じて、新成長国が発行した米国ドル建て、ユーロ建ての国債、および現地通貨建ての国債等に投資し、利子収入（インカム・ゲイン）の確保を目指しながら値上がり益（キャピタル・ゲイン）の追求も行います。
2. 米国ドル建て/ユーロ建て債と現地通貨建て債との利回り格差、および現地通貨の信頼性等を独自の手法で分析し、国別、通貨別アロケーションを決定します。
3. マザーファンドを通じて実質的に保有する外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません
4. 資金動向や市況動向等によっては、前記のような運用ができない場合があります。

### (2)【投資対象】

#### 投資対象とする資産の種類

投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
  - イ. 有価証券
  - ロ. デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第22条に定めるものに限りません。）

ハ．金銭債権(イ．ニ．に掲げるものに該当するものを除きます。以下同じ。)

ニ．約束手形(金融商品取引法第2条第1項第15号に掲げるものを除きます。)

2．次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

投資対象とする有価証券の範囲

委託会社は、信託金を、主としてパインブリッジ・インベストメンツ株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託であるパインブリッジ新成長国債マザーファンド、パインブリッジ新成長国債マザーファンド および次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

- 1．国債証券
- 2．地方債証券
- 3．特別の法律により法人の発行する債券
- 4．社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。)
- 5．転換社債の転換、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下、会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)の行使により取得した株券
- 6．コマーシャル・ペーパー
- 7．外国または外国の者の発行する証券または証書で、前記1．から6．の証券または証書の性質を有するもの
- 8．投資信託証券(外国の者が発行する証券で、投資信託証券の性質を有するものを含みます。ただし、クローズド・エンド型の会社型外国投資信託証券を除きます。以下同じ。)
- 9．外国の者の発行する証券または証書で、銀行業を営む者その他の金銭の貸付けを業として行う者の貸付債権を信託する信託の受益権またはこれに類する権利を表示するもの(以下「外国貸付債権信託受益証券」といいます。)
- 10．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 11．指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
- 12．抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
- 13．銀行、信託会社その他政令で定める金融機関または主として住宅の取得に必要な長期資金の貸付けを業として行う者の貸付債権を信託する信託の受益権および外国法人に対する権利で同様の権利の性質を有するもの(以下「貸付債権信託受益権」といいます。)であって、金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- 14．外国の者に対する権利で前記13．の有価証券の性質を有するもの。

なお、前記5．の証券および7．の証券または証書のうち5．の証券の性質を有するものを以下「株式」といい、1．から4．までの証券および7．の証券のうち1．から4．までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

委託会社は、信託金を、前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

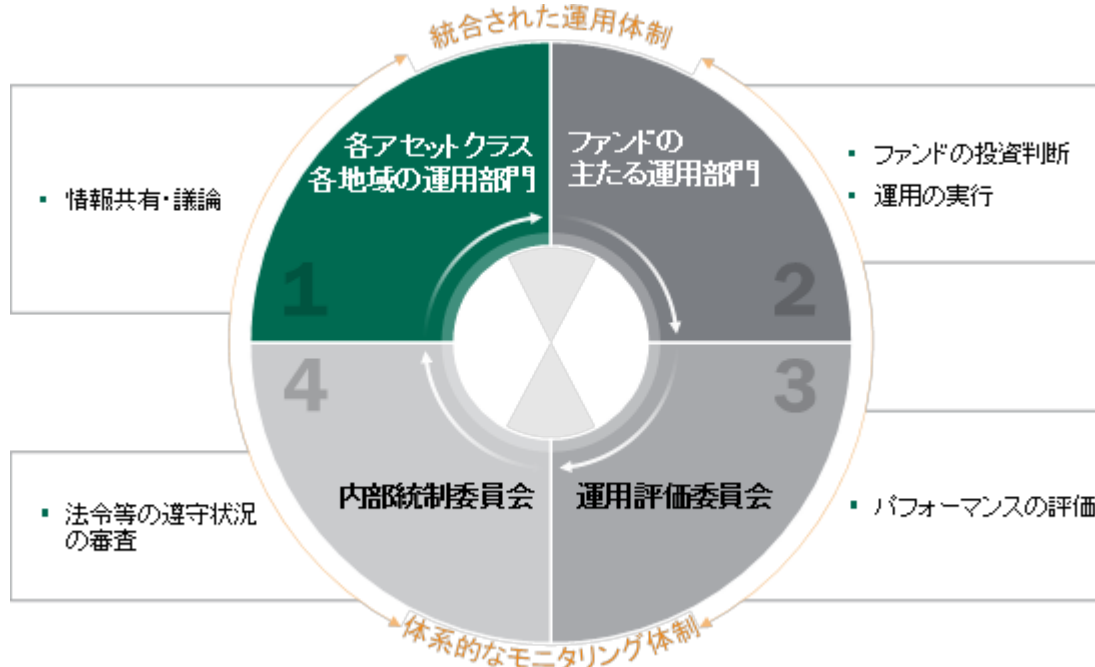
- 1．預金
- 2．指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形
- 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

6．外国の者に対する権利で前記5．の権利の性質を有するもの

前記の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記 1．から6．に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

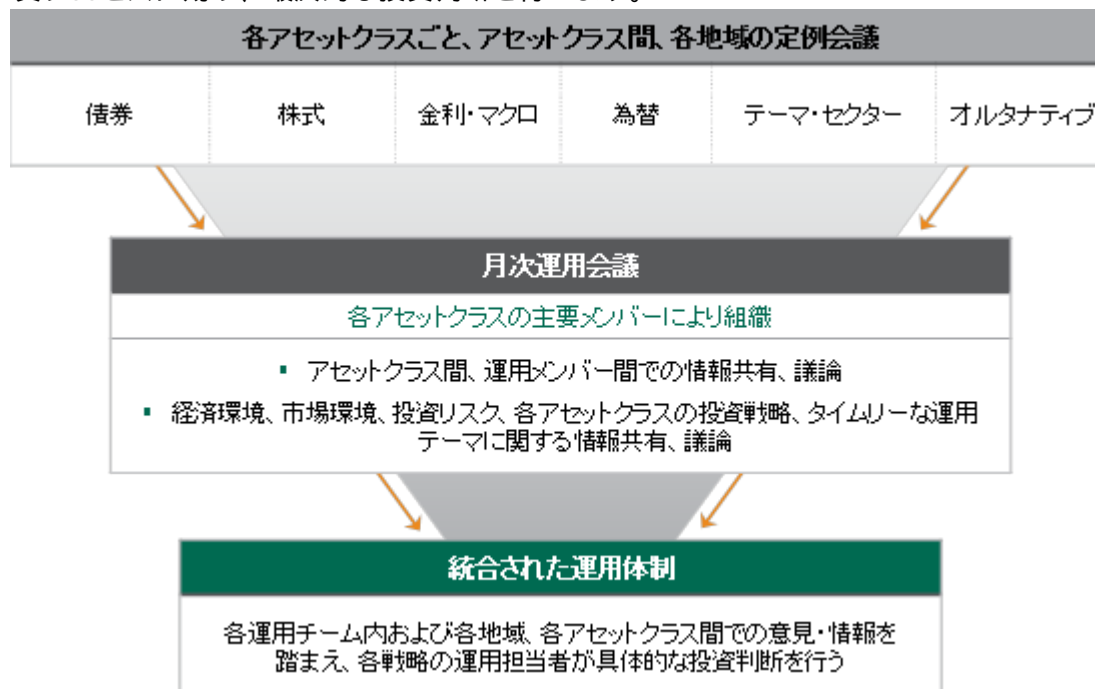
### （3）【運用体制】

委託会社の運用体制



#### 1．投資判断

運用判断を行うにあたり、下記の図のとおり、各運用チームごと、運用チーム間、各地域内、および各地域間、テーマごと等の各種定例会議において様々な情報共有、意見交換、議論を行います。これらの情報・議論に基づき、運用部門（11名）の担当者は各ファンドの運用基本方針、各運用戦略の投資プロセスに則り、最終的な投資判断を行います。



#### 2．パフォーマンス評価とリスク管理

- ・運用業務部（10名）において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。
- ・法務コンプライアンス部（4名）において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。

- ・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。

### 3. ファンドの関係法人に対する管理体制

- ・ファンドの受託会社に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などの信託財産の管理業務を通じて、信託事務の正確性・迅速性・システム対応力等を総合的に検証しています。また、受託会社より、内部統制の有効性についての報告書を受取っています。
- ・ファンドの運用に関する権限の委託先に対しては、担当部署において外部委託先が行った日々の約定の確認を行うとともに、法務コンプライアンス部において運用状況のモニタリングを行い、必要に応じて改善を求めます。

### 4. 当ファンドの運用担当者に係る事項

- ・パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド エマージング国債運用チーム

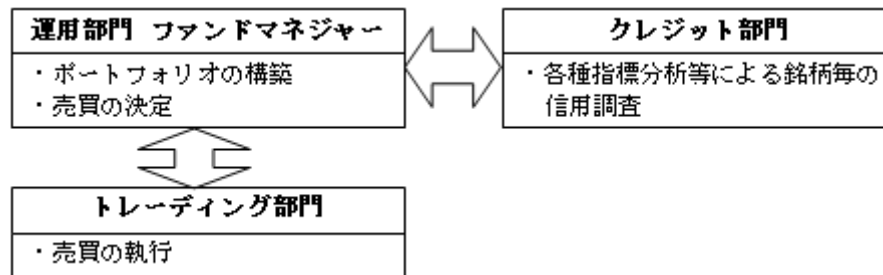
運用担当者：3名、平均運用経験年数：21年

当社では、運用の適正化および投資者保護を目的として、社内規程等で信託財産の運用にあたって必要な事項を定めております。

前記の運用体制等は2019年12月末日現在のものであり、今後変更することがあります。

#### 投資顧問会社の運用体制

当ファンドが投資する各マザーファンドの外貨建て資産の運用に関する権限の委託先である、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドにおける運用体制は次の通りです。



前記の運用体制等は、今後変更することがあります。

## (4) 【分配方針】

毎決算時（1・3・5・7・9・11月の25日、休業日の場合は翌営業日）に、原則として次のとおり収益分配を行う方針です。

- 1) 分配対象額は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額）の全額とします。
- 2) 分配金額は、基準価額の水準、市況動向、運用状況等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
- 3) 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- 1) 信託財産に属する配当等収益（配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額をいいます。以下同じ。）とみなし配当等収益との合計額から諸経費、信託報酬および当該信託報酬に対する消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
- 2) 売買損益に評価損益を加減して得た額からみなし配当等収益を控除して得た売買益は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に対する消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。
- 3) 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。



## 収益分配金の支払い

- 1) 収益分配金は、毎決算日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としません。）に支払います。
- 2) 前記1)の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は、原則として、毎決算日の翌営業日に、収益分配金を販売会社に交付します。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付けを行います。当該売付けにより増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。
- 3) 前記1)に規定する収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。
- 4) 受託会社は、収益分配金については原則として毎決算日の翌営業日までに、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払い込みます。受託会社は、委託会社の指定する預金口座等に収益分配金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

## (5)【投資制限】

### < 信託約款による投資制限 >

株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への実質投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

外貨建て資産への実質投資割合には、制限を設けません。

委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。）に上場されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

### 先物取引等の指図範囲

- 1) 委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）ならびに有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。（以下同じ。）
  1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券（以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
  2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額（組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額）に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券および組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに（2）投資対象 に掲げる金融商品で運用している額の範囲とします。

- 2) 委託会社は、信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の売予約と合せてヘッジの対象とする外貨建て資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属するヘッジの対象とする外貨建て資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占めるヘッジの対象とする外貨建て資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。)との合計額の範囲内とします。
  2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の買予約と合せて、外貨建て有価証券の買付代金等実需の範囲内とします。
- 3) 委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに(2)投資対象に掲げる金融商品で運用しているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
  2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに(2)投資対象に掲げる金融商品で運用している額(以下「金融商品運用額等」といいます。)の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建てで、信託財産の外貨建て資産組入可能額(約款上の組入可能額から保有外貨建て資産の時価総額を差し引いた額。以下同じ。)に信託財産が限月までに受取る外貨建て組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券および外貨建て組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等より少ない場合には外貨建て資産組入可能額に信託財産が限月までに受取る外貨建て組入有価証券にかかる利払金および償還金等を加えた額を限度とします。

#### 特別の場合の外貨建て有価証券への投資制限

外貨建て有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

#### 外国為替予約取引の指図

委託会社は、信託財産に属する外貨建て資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建て資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額について、当該外貨建て資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

#### 資金の借入れ

- 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、信託財産において一部解約金の支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- 2) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

3) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

4) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%以内、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会の規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

#### < 法令等による投資制限 >

同一法人の発行する株式への投資制限(投資信託及び投資法人に関する法律)

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図しないものとします。

デリバティブ取引にかかる投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令)

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引(新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

## （ご参考）マザーファンドの概要

### 《1》パインブリッジ新成長国債券マザーファンドI

#### 1. 基本方針

この投資信託は、主として新成長国が発行した米国ドル建て、ユーロ建ての国債に投資し、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

#### 2. 運用方法

##### （1）投資対象

原則として、新成長国が発行した米国ドル建て、ユーロ建ての国債を主要投資対象とします。

##### （2）投資態度

主に新成長国が発行した国債に投資し高水準の利子収入（インカム・ゲイン）の確保を目指して運用します。

組入対象とする新成長国債は、米国ドル建てユーロ建てで発行されている国債に限定します。

ポートフォリオの構築にあたっては、当該発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性、発行条件などの各種分析に基づき、割安と判断される銘柄を選定して投資します。

投資対象となる新成長国の分散を図り、ントリーリスクをコントロールします。

組入外貨建て資産に対しては、原則として為替ヘッジを行いません。

運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドに外貨建て資産の運用に関する権限を委託します。

資金動向や市況動向等によっては、前記のような運用が行えない場合があります

##### （3）投資制限

株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

外貨建て資産への投資割合には、制限を設けません。

有価証券先物取引等は、信託約款に定める範囲で行います。

## 《2》パインブリッジ新成長国債券マザーファンド

### 1. 基本方針

この投資信託は、主として新成長国が発行した現地通貨建て国債等に投資し、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

### 2. 運用方法

#### (1) 投資対象

新成長国が発行した現地通貨建ての国債、あるいはそれと同等の価値を有する現地通貨建て国債連動債券（クレジット・リンク・ノート）を主要投資対象とします。

#### (2) 投資態度

主に新成長国が発行した国債等に投資し高水準の利子収入（インカム・ゲイン）の確保を目指して運用します。

組入対象とする新成長国債等は、主として現地通貨建てで発行されている国債、あるいはそれと同等の価値を有する現地通貨建て国債連動債券（クレジット・リンク・ノート）とします。

ポートフォリオの構築にあたっては、当該発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性、発行条件などの各種分析に基づき、割安と判断される銘柄を選定して投資します。

投資対象となる新成長国の分散を図り、ントリーリスクをコントロールします。

組入外貨建て資産に対しては、原則として為替ヘッジを行いません。

運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドに外貨建て資産の運用に関する権限を委託します。

資金動向や市況動向等によっては、前記のような運用が行えない場合があります。

#### (3) 投資制限

株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建て資産への投資割合には、制限を設けません。

有価証券先物取引等は、信託約款に定める範囲で行います。



### 3【投資リスク】

#### (1) 当ファンドのリスク

当ファンドは、主として2つのマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に新成長国債等の値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります。）を主要投資対象としますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは預貯金とは異なり、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属しますので、お申込みにあたりましては、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、お申込みください。

当ファンドが有する主なリスク要因は、以下の通りです。

##### 価格変動リスク

当ファンドが実質的に投資する債券は、一般に、経済・社会情勢、発行体の信用状況、経営・財務状況、企業業績ならびに市場の需給等の影響を受け、変動します。組入銘柄の価格の下落は、当ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

##### 信用リスク

債券の発行体の財務状況の悪化等の理由による価格の下落、利息・元本・償還金の支払不能または債務不履行（デフォルト）等の影響を受け、基準価額が下落することがあります。当ファンドの組入対象となる新成長国の国債等は、先進国などの格付けが上位の国と比較して高い利回りを提供する一方、債券価格の変動がより大きく、支払遅延またはデフォルトするリスクが相対的に高いと考えられます。国債の発行国の信用力は一般的に格付会社により評価されますが、格付けが低いほど債務不履行の可能性が高いことを意味します。発行国の財務状況の悪化、社会情勢の変化等により格付けが低下することにより、債券価格が大きく下落することがあります。

##### 金利変動リスク

金利変動により債券価格が変動するリスクをいいます。一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落し、ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

##### 為替変動リスク

当ファンドは外貨建ての債券に投資しますので、為替変動リスクを伴います。一般的に外国為替相場は、金利動向、政治・経済情勢、需給その他様々な要因により変動します。この影響を受けて外貨建て資産の価格が変動し、基準価額が下落することがあります。また当ファンドは、米国ドル建て/ユーロ建て債券以外に現地通貨建て債券にも投資することから、相対的に高い為替変動リスクを有します。

##### 新成長国のリスク（カントリーリスク）

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。また、新成長国債券投資には、先進国と比較して政治・経済および社会情勢の変化が債券価格に及ぼす影響が相対的に高い可能性があります。発行国における経済危機、政治不安、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結等の規制の導入、自然災害、戦争などの際には、通常の運用を行えない場合があり、これらの事象により基準価額に大きな影響を与える可能性があります。さらに、当ファンドは、現地通貨建て債券にも投資することから、通貨交換が行えなくなるリスクや流動性リスクを有します。したがって、当ファンドが投資対象とする新成長国の市場は、市場環境や社会情勢の著しい悪化を受けた場合等には、投資資金を日本円に戻すのに日数がかかる場合があり、換金代金の支払日が遅延する可能性があります。

##### 流動性リスク

組入有価証券等を売買しようとする場合に、当該有価証券等の需給状況により、希望する時期および価格で売買できないリスクをいいます。この影響を受け基準価額が下落する要因になることがあります。なお、当ファンドは新成長国債等に投資することから、先進国債に比べ相対的に高い流動性リスクを有します。

##### その他のリスク・留意点

###### 1) カウンターパーティーリスク

当ファンドでは、証券取引、為替取引等の相対取引を行うことがあります。これには取引相手方の決済不履行リスクが伴います。

## 2) 有価証券先物等に伴うリスク

当ファンドでは、有価証券先物取引等を利用することがありますので、このような場合にはファンドの基準価額は有価証券先物等の価格変動の影響を受けます。

## 3) 解約によるファンドの資金流出に伴うリスク

解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券を大量に売却(先物取引については反対売買)しなければならないことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって基準価額が大きく下落することがあります。

## 4) 資産規模に関するリスク

当ファンドの資産規模によっては、運用方針に基づく運用が効率的にできない場合があります。

## 5) 収益分配に関わるリスク

当ファンドは、毎決算期に収益分配方針にしたがい分配を行います。ただし、委託会社の判断により、分配が行われないこともあります。また、基準価額が元本を下回っていても、分配が行われる場合があります。

## 6) 繰上償還に関わる留意点

当ファンドは、残存口数が5億口を下回った場合には、繰上償還されることがあります。

## 7) 取得申込、解約請求等に関する留意点

当ファンドは、ロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合には、取得申込および解約請求の受付はできません。なお、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情(投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場封鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、委託会社の判断で取得申込および解約請求の受付を中止することがあります。また、すでに受付けた取得申込および解約請求を取消すことがあります。

## 8) ファミリーファンド方式に関する留意点

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金移動があり、その結果、マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

## 9) クレジット・リンク・ノート(CLN)に関する留意点

クレジット・リンク・ノートは、信用リスクを別の債券の信用に結びつけた債券です。当ファンドが投資対象とするクレジット・リンク・ノートは、現地通貨建て国債に投資するのと同様の投資効果がありますが、同様のリスクも負うこととなります。

## 10) 収益分配金に関する留意点

収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて行う場合があります。したがって、収益分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。また、投資者の個別元本の状況によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。なお、収益分配金はファンドの純資産から支払われますので、分配金の支払いは純資産総額の減少につながり、基準価額の下落要因となります。計算期間中の運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

## 11) その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

## (2) 投資リスクに対する管理体制

委託会社におけるリスク管理体制は、次の通りです。

## 1) 運用業務部

運用資産にかかる運用リスクの低減および顕在化の防止に努めます。

また、運用実績の分析および評価を行い内部統制委員会に上程します。

## 2) 法務コンプライアンス部

運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。

また、適正なるコンプライアンスを実現するための施策を行います。

## 3) 内部統制委員会

月1回開催、法務コンプライアンス部の報告に基づき、諸法令等の遵守状況についての審議および体制整備等の適正な運用に資する対応を図ります。

## 4) 運用評価委員会

月1回以上開催、運用実績の分析および評価を総合的に審議し、必要に応じて運用改善のための対応を図ります。

マザーファンドの投資顧問会社におけるリスク管理体制は、次の通りです。

1) リスク管理部門においては、運用ガイドラインの遵守状況をモニタリングし、問題点が発生した場合は、ファンドマネジャーに是正勧告を行うとともに売買監視委員会に報告します。

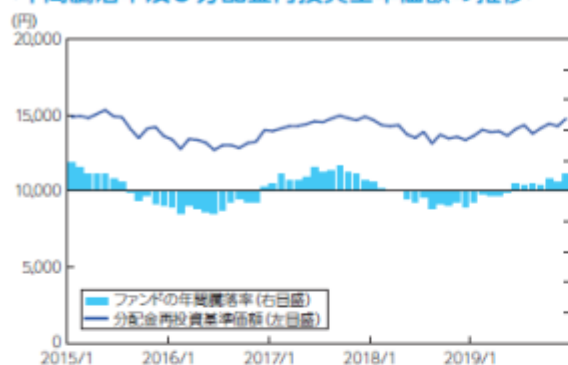
2) 売買監視委員会は、四半期ごとにチェック状況等につき審議します。

3) パフォーマンス評価部門において、運用実績の評価分析を行い運用に反映します。

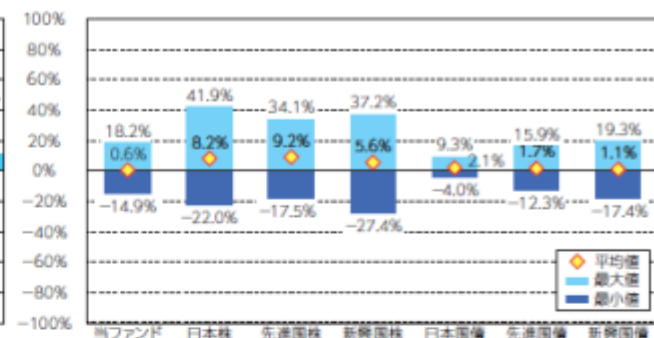
前記のリスク管理体制等は、今後変更することがあります。

## &lt; 参考情報 &gt;

## &lt;年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移&gt;



## &lt;代表的な資産クラスとの騰落率の比較&gt;



※代表的な資産クラスとの騰落率の比較は、2015年1月～2019年12月の5年間の各月末における1年騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したもので、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成しています。なお、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※騰落率は税引前の収益分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率とは異なる場合があります。

## ●各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数(TOPIX)配当込み

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み・円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(ヘッジなし・円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

東証株価指数(TOPIX)配当込みは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株式会社東京証券取引所が有しています。

MSCIコクサイ・インデックス(配当込み・円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)は、MSCI Inc.が開発した指数で、同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が作成している指数で、同指数に関する知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属しています。また、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより算出および公表されている債券指数であり、同指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(ヘッジなし・円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出・公表する指数で、同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 4【手数料等及び税金】

**（１）【申込手数料】**

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に対し2.2%（税抜2.0%）の率を乗じて得た額を上限として、販売会社が独自に定めるものとします。（申込手数料は、当該手数料にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する額を含みます。以下同じ。）

なお、収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.pinebridge.co.jp/>

申込手数料は、商品説明、募集・販売の取扱事務等の対価です。

**（２）【換金（解約）手数料】**

換金（解約）手数料はありません。

**（３）【信託報酬等】**

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.76%（税抜年1.6%）の率を乗じて得た金額とします。委託会社、受託会社および各販売会社の配分についての内訳は次の通りです。（信託報酬には、当該報酬にかかる消費税等に相当する額を含みます。以下同じ。）

	各販売会社の純資産残高		
	50億円以下の部分	50億円超200億円以下の部分	200億円超の部分
信託報酬	1.76%（税抜1.6%）		
委託会社	0.913% （税抜0.83%）	0.858% （税抜0.78%）	0.803% （税抜0.73%）
販売会社	0.77% （税抜0.7%）	0.825% （税抜0.75%）	0.88% （税抜0.8%）
受託会社	0.077% （税抜0.07%）	0.077% （税抜0.07%）	0.077% （税抜0.07%）

委託会社の受取る報酬には、マザーファンドの運用指図の権限を委託する投資顧問会社への報酬、信託財産の計算に関する委託会社の事務代行を行う会社への事務代行手数料、信託財産の財務諸表の監査を行う監査法人に対する費用および目論見書・運用報告書の作成等に要する費用が含まれます。信託報酬は、毎決算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払うものとします。

マザーファンドの運用にかかる権限の委託先への報酬は、年率0.40%以内の率を乗じて得た額とし、マザーファンドの毎計算期間の末日において、委託会社が受取る報酬から支払うものとします。

信託報酬は、運用期間中の基準価額に信託報酬率を乗じたものです。委託会社の受取り分は、委託した資金の運用、交付運用報告書等の作成、ファンドの監査等の対価です。販売会社取り分は、交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。受託会社取り分は、運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価です。

**（４）【その他の手数料等】**

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息を信託財産中から支払います。

証券取引に伴う手数料等、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料は、信託財産が負担します。このほか、売買委託手数料に対する消費税等相当額および先物取引・オプション取引等に要する費用についても信託財産が負担します。

信託財産に属する有価証券等の保管を外国の金融機関に委任する場合の保管費用についても信託財産が負担します。

信託財産において一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入の指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産から支払われます。

その他の手数料等は、事前に計算できないため、その総額や計算方法を記載しておりません。

売買委託手数料は、有価証券の売買の際、売買仲介人に支払う手数料です。

保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転に要する費用です。

前記(1)から(4)の費用・手数料等には、保有期間に応じて異なるものや、事前に計算できないものが含まれているため、その合計額、上限額、計算方法等を表示することはできません。

## (5)【課税上の取扱い】

当ファンドは課税上は株式投資信託として取扱われます。

個人の受益者に対する課税

普通分配金については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告の必要はありません。なお、確定申告をして、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することも可能です。

一部解約時および償還時の差益については、申告分離課税が適用され、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率となります。

法人の受益者に対する課税

普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%の所得税が源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。

原則として、配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となります。他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

外貨建て資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

### \* 1 個別元本について

追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合には販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店等毎に、分配金受取りコースと分配金再投資コースの両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

### \* 2 元本払戻金（特別分配金）について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、

当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。



前記は2019年12月末日現在のもので、税法が改正された場合等においては、税率等の課税上の取扱いが変更になることがあります。  
税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご相談されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

## (1)【投資状況】

(2019年12月30日現在)

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	1,335,919,760	100.10
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		1,323,518	0.10
合計（純資産総額）		1,334,596,242	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## 1. 組入上位銘柄（2019年12月30日現在）

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
日本	親投資信託 受益証券	パインブリッジ 新成長国債券 マザーファンド	473,464,475	1.6334	773,356,874	1.6978	803,847,985	60.23
日本	親投資信託 受益証券	パインブリッジ 新成長国債券 マザーファンド	208,811,183	2.4558	512,798,504	2.5481	532,071,775	39.87

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価比率です。

## 2. 種類別及び業種別投資比率（2019年12月30日現在）

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	100.10
合計	100.10

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の比率です。

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3)【運用実績】

## 【純資産の推移】

	純資産総額（円）		基準価額（円）	
第9特定期間末 (2010年5月25日)	(分配付)	14,191,502,434	(分配付)	6,922
	(分配落)	13,557,063,007	(分配落)	6,622
第10特定期間末 (2010年11月25日)	(分配付)	12,286,516,558	(分配付)	6,842
	(分配落)	11,830,735,397	(分配落)	6,602
第11特定期間末 (2011年5月25日)	(分配付)	9,405,876,837	(分配付)	6,626
	(分配落)	9,174,405,244	(分配落)	6,476
第12特定期間末	(分配付)	6,877,468,017	(分配付)	5,810

(2011年11月25日)	(分配落)	6,690,861,526	(分配落)	5,660
第13特定期間末	(分配付)	6,122,696,152	(分配付)	6,090
(2012年5月25日)	(分配落)	5,964,228,726	(分配落)	5,940
第14特定期間末	(分配付)	5,783,379,608	(分配付)	6,730
(2012年11月26日)	(分配落)	5,647,804,002	(分配落)	6,580
第15特定期間末	(分配付)	5,713,899,852	(分配付)	8,046
(2013年5月27日)	(分配落)	5,600,974,970	(分配落)	7,896
第16特定期間末	(分配付)	4,544,530,476	(分配付)	7,315
(2013年11月25日)	(分配落)	4,448,224,606	(分配落)	7,165
第17特定期間末	(分配付)	4,032,976,587	(分配付)	7,600
(2014年5月26日)	(分配落)	3,949,984,369	(分配落)	7,450
第18特定期間末	(分配付)	3,866,792,130	(分配付)	8,392
(2014年11月25日)	(分配落)	3,794,417,231	(分配落)	8,242
第19特定期間末	(分配付)	3,405,133,984	(分配付)	8,085
(2015年5月25日)	(分配落)	3,340,183,420	(分配落)	7,935
第20特定期間末	(分配付)	2,954,949,058	(分配付)	7,436
(2015年11月25日)	(分配落)	2,894,492,876	(分配落)	7,286
第21特定期間末	(分配付)	2,526,500,529	(分配付)	6,669
(2016年5月25日)	(分配落)	2,468,968,086	(分配落)	6,519
第22特定期間末	(分配付)	2,354,983,358	(分配付)	6,650
(2016年11月25日)	(分配落)	2,300,700,530	(分配落)	6,500
第23特定期間末	(分配付)	2,240,889,476	(分配付)	7,057
(2017年5月25日)	(分配落)	2,191,804,951	(分配落)	6,907
第24特定期間末	(分配付)	2,077,865,001	(分配付)	6,963
(2017年11月27日)	(分配落)	2,031,995,829	(分配落)	6,813
第25特定期間末	(分配付)	1,761,992,463	(分配付)	6,471
(2018年5月25日)	(分配落)	1,719,591,037	(分配落)	6,321
第26特定期間末	(分配付)	1,527,351,096	(分配付)	6,135
(2018年11月26日)	(分配落)	1,489,243,719	(分配落)	5,985
第27特定期間末	(分配付)	1,420,420,466	(分配付)	6,081
(2019年5月27日)	(分配落)	1,384,646,852	(分配落)	5,931
第28特定期間末	(分配付)	1,340,268,746	(分配付)	6,173
(2019年11月25日)	(分配落)	1,306,611,715	(分配落)	6,023
2018年12月末日		1,465,483,564		5,937
2019年 1月末日		1,470,419,035		6,014
2月末日		1,499,965,976		6,187
3月末日		1,438,087,932		6,074
4月末日		1,426,446,348		6,097
5月末日		1,382,157,983		5,918
6月末日		1,416,058,240		6,108
7月末日		1,421,468,620		6,170
8月末日		1,356,800,133		5,928
9月末日		1,358,802,151		6,030
10月末日		1,354,225,479		6,159

11月末日	1,309,501,935	6,039
12月末日	1,334,596,242	6,245

(注) 特定期間末の純資産総額（分配付）および基準価額（分配付）は、当該特定期間末における純資産総額（分配落）および基準価額（分配落）の金額に、当該特定期間中に支払われた収益分配金の累計額を加算した額を表示しております。

### 【分配の推移】

	期 間	1万口当たりの分配金
第9特定期間	自 2009年11月26日	300円
	至 2010年 5月25日	
第10特定期間	自 2010年 5月26日	240円
	至 2010年11月25日	
第11特定期間	自 2010年11月26日	150円
	至 2011年 5月25日	
第12特定期間	自 2011年 5月26日	150円
	至 2011年11月25日	
第13特定期間	自 2011年11月26日	150円
	至 2012年 5月25日	
第14特定期間	自 2012年 5月26日	150円
	至 2012年11月26日	
第15特定期間	自 2012年11月27日	150円
	至 2013年 5月27日	
第16特定期間	自 2013年 5月28日	150円
	至 2013年11月25日	
第17特定期間	自 2013年11月26日	150円
	至 2014年 5月26日	
第18特定期間	自 2014年 5月27日	150円
	至 2014年11月25日	
第19特定期間	自 2014年11月26日	150円
	至 2015年 5月25日	
第20特定期間	自 2015年 5月26日	150円
	至 2015年11月25日	
第21特定期間	自 2015年11月26日	150円
	至 2016年 5月25日	
第22特定期間	自 2016年 5月26日	150円
	至 2016年11月25日	
第23特定期間	自 2016年11月26日	150円
	至 2017年 5月25日	
第24特定期間	自 2017年 5月26日	150円
	至 2017年11月27日	
第25特定期間	自 2017年11月28日	150円
	至 2018年 5月25日	

第26特定期間	自 2018年 5月26日	150円
	至 2018年11月26日	
第27特定期間	自 2018年11月27日	150円
	至 2019年 5月27日	
第28特定期間	自 2019年 5月28日	150円
	至 2019年11月25日	

## 【収益率の推移】

	期間	収 益 率
第9特定期間	自 2009年11月26日	2.5%
	至 2010年 5月25日	
第10特定期間	自 2010年 5月26日	3.3%
	至 2010年11月25日	
第11特定期間	自 2010年11月26日	0.4%
	至 2011年 5月25日	
第12特定期間	自 2011年 5月26日	10.3%
	至 2011年11月25日	
第13特定期間	自 2011年11月26日	7.6%
	至 2012年 5月25日	
第14特定期間	自 2012年 5月26日	13.3%
	至 2012年11月26日	
第15特定期間	自 2012年11月27日	22.3%
	至 2013年 5月27日	
第16特定期間	自 2013年 5月28日	7.4%
	至 2013年11月25日	
第17特定期間	自 2013年11月26日	6.1%
	至 2014年 5月26日	
第18特定期間	自 2014年 5月27日	12.6%
	至 2014年11月25日	
第19特定期間	自 2014年11月26日	1.9%
	至 2015年 5月25日	
第20特定期間	自 2015年 5月26日	6.3%
	至 2015年11月25日	
第21特定期間	自 2015年11月26日	8.5%
	至 2016年 5月25日	
第22特定期間	自 2016年 5月26日	2.0%
	至 2016年11月25日	
第23特定期間	自 2016年11月26日	8.6%
	至 2017年 5月25日	
第24特定期間	自 2017年 5月26日	0.8%
	至 2017年11月27日	
第25特定期間	自 2017年11月28日	5.0%
	至 2018年 5月25日	

第26特定期間	自 2018年 5月26日	2.9%
	至 2018年11月26日	
第27特定期間	自 2018年11月27日	1.6%
	至 2019年 5月27日	
第28特定期間	自 2019年 5月28日	4.1%
	至 2019年11月25日	

（注）収益率は次の計算式により算出しております。

$$\text{収益率} = \left( \text{当特定期間末分配落基準価額} + \text{当特定期間中分配金累計額} - \text{前特定期間末分配落基準価額} \right) \div \text{前特定期間末分配落基準価額} \times 100$$

#### （４）【設定及び解約の実績】

期 間		設定口数	解約口数
第9特定期間	自 2009年11月26日	1,234,428,785	2,724,126,965
	至 2010年 5月25日		
第10特定期間	自 2010年 5月26日	217,282,577	2,769,951,526
	至 2010年11月25日		
第11特定期間	自 2010年11月26日	152,240,738	3,904,429,466
	至 2011年 5月25日		
第12特定期間	自 2011年 5月26日	51,579,750	2,397,860,376
	至 2011年11月25日		
第13特定期間	自 2011年11月26日	44,751,662	1,824,514,562
	至 2012年 5月25日		
第14特定期間	自 2012年 5月26日	20,679,783	1,477,771,353
	至 2012年11月26日		
第15特定期間	自 2012年11月27日	31,608,573	1,521,647,631
	至 2013年 5月27日		
第16特定期間	自 2013年 5月28日	19,492,002	904,720,134
	至 2013年11月25日		
第17特定期間	自 2013年11月26日	9,799,385	916,007,437
	至 2014年 5月26日		
第18特定期間	自 2014年 5月27日	7,469,815	705,904,576
	至 2014年11月25日		
第19特定期間	自 2014年11月26日	11,287,954	405,220,679
	至 2015年 5月25日		
第20特定期間	自 2015年 5月26日	8,856,500	245,690,371
	至 2015年11月25日		
第21特定期間	自 2015年11月26日	8,658,718	194,340,318
	至 2016年 5月25日		
第22特定期間	自 2016年 5月26日	9,406,858	257,065,535
	至 2016年11月25日		
第23特定期間	自 2016年11月26日	6,005,295	372,089,934
	至 2017年 5月25日		

第24特定期間	自 2017年 5月26日	30,701,683	221,688,001
	至 2017年11月27日		
第25特定期間	自 2017年11月28日	7,212,193	269,098,142
	至 2018年 5月25日		
第26特定期間	自 2018年 5月26日	6,606,358	238,729,059
	至 2018年11月26日		
第27特定期間	自 2018年11月27日	5,508,026	159,482,936
	至 2019年 5月27日		
第28特定期間	自 2019年 5月28日	4,970,531	169,978,700
	至 2019年11月25日		

(注) 上記は、すべて本邦内における設定、解約の実績口数です。



## （ご参考）

## 《1》パインブリッジ新成長国債券マザーファンド

## （1）投資状況

（2019年12月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	バーレーン	177,781,450	6.09
	カタール	177,420,763	6.08
	アラブ首長国連邦	162,679,071	5.57
	メキシコ	140,066,982	4.80
	ウクライナ	139,416,140	4.77
	スリランカ	139,210,048	4.77
	エジプト	136,274,644	4.67
	ブラジル	128,482,929	4.40
	パナマ	117,075,817	4.01
	コロンビア	116,062,211	3.97
	グアテマラ	115,736,445	3.96
	ドミニカ共和国	113,927,609	3.90
	エクアドル	109,377,201	3.75
	ガーナ	96,726,706	3.31
	トルコ	96,460,919	3.30
	アンゴラ共和国	80,826,290	2.77
	ホンジュラス	77,534,243	2.66
	インドネシア	75,054,425	2.57
	コートジボアール	70,582,634	2.42
	モンゴル国	67,527,562	2.31
	ペルー	60,781,697	2.08
	オマーン	56,134,216	1.92
	フィリピン	51,816,260	1.77
	ナイジェリア	50,623,272	1.73
	クウェート	44,543,809	1.53
	カザフスタン	40,528,408	1.39
	サウジアラビア	36,516,775	1.25
ケニア	35,668,025	1.22	
ウルグアイ	35,460,463	1.21	
ロシア	29,314,367	1.00	
南アフリカ	20,871,180	0.71	
小計	2,800,482,561	95.91	
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	119,531,202	4.09	
合計（純資産総額）	2,920,013,763	100.00	

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。

## （2）投資資産

## 投資有価証券の主要銘柄

## 1．組入上位30銘柄（2019年12月30日現在）

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	利率 （％）	償還期限	投資 比率 （％）
バーレーン	国債証券	KINGDOM OF BAHRAIN	930,000	12,703.88	118,146,140	12,988.61	120,794,090	7.0000	2028/10/12	4.14
スリランカ	国債証券	REPUBLIC OF SRI LANKA	880,000	10,930.81	96,191,186	10,901.55	95,933,673	7.5500	2030/3/28	3.29
エジプト	国債証券	ARAB REPUBLIC OF EGYPT	750,000	11,683.47	87,626,088	12,007.20	90,054,047	7.6003	2029/3/1	3.08
ホンジュラス	国債証券	HONDURAS GOVERNMENT	650,000	11,969.53	77,802,008	11,928.34	77,534,243	6.2500	2027/1/19	2.66
ドミニカ共和国	国債証券	REPUBLIC OF DOMINICAN	628,000	12,106.48	76,028,754	12,174.85	76,458,089	6.6000	2024/1/28	2.62
コートジボアール	国債証券	REPUBLIC OF COTE DIVOIRE	642,400	10,879.73	69,891,426	10,987.33	70,582,634	5.7500	2032/12/31	2.42
カタール	国債証券	STATE OF QATAR	500,000	14,013.49	70,067,454	14,107.98	70,539,932	5.1030	2048/4/23	2.42
アラブ首長国連邦	国債証券	ABU DHABI GOVT INT L	600,000	11,602.06	69,612,386	11,504.01	69,024,115	3.1250	2027/10/11	2.36
ウクライナ	国債証券	UKRAINE GOVERNMENT	500,000	12,934.92	64,674,637	13,306.55	66,532,775	9.7500	2028/11/1	2.28
カタール	国債証券	STATE OF QATAR	500,000	12,556.63	62,783,194	12,573.55	62,867,774	4.5000	2028/4/23	2.15
ブラジル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL	400,000	15,653.38	62,613,540	15,557.52	62,230,080	10.1250	2027/5/15	2.13
コロンビア	国債証券	REPUBLIC OF COLOMBIA	560,000	10,997.19	61,584,290	11,006.83	61,638,281	2.6250	2023/3/15	2.11
エクアドル	国債証券	REPUBLIC OF ECUADOR	550,000	11,289.66	62,093,130	10,740.68	59,073,779	10.7500	2029/1/31	2.02
パナマ	国債証券	REPUBLIC OF PANAMA	350,000	16,831.26	58,909,426	16,694.20	58,429,718	9.3750	2029/4/1	2.00
グアテマラ	国債証券	REPUBLIC OF GUATEMALA	500,000	11,654.55	58,272,773	11,654.44	58,272,225	4.8750	2028/2/13	2.00
メキシコ	国債証券	UNITED MEXICAN STATES	500,000	11,175.22	55,876,148	11,585.97	57,929,850	4.3500	2047/1/15	1.98
トルコ	国債証券	REPUBLIC OF TURKEY	510,000	11,270.98	57,482,024	11,296.95	57,614,449	6.8750	2036/3/17	1.97
アンゴラ共和国	国債証券	REPUBLIC OF ANGOLA	480,000	10,918.90	52,410,764	11,624.42	55,797,242	8.0000	2029/11/26	1.91
フィリピン	国債証券	REPUBLIC OF PHILIPPINES	320,000	16,494.01	52,780,839	16,192.58	51,816,260	7.7500	2031/1/14	1.77
エクアドル	国債証券	REPUBLIC OF ECUADOR	450,000	12,079.09	54,355,948	11,178.53	50,303,422	10.7500	2022/3/28	1.72
アラブ首長国連邦	国債証券	ABU DHABI GOVT INT'L	450,000	10,900.23	49,051,053	10,940.57	49,232,583	2.5000	2029/9/30	1.69
メキシコ	国債証券	UNITED MEXICAN STATES	400,000	11,613.46	46,453,878	11,996.82	47,987,280	4.6000	2048/2/10	1.64
インドネシア	国債証券	REPUBLIC OF INDONESIA	400,000	11,777.70	47,110,800	11,748.10	46,992,438	4.1250	2025/1/15	1.61

エジプト	国債証券	ARAB REPUBLIC OF EGYPT	379,000	11,571.91	43,857,547	12,195.40	46,220,597	8.5000	2047/1/31	1.58
クウェート	国債証券	KUWAIT INTL BOND	400,000	11,138.60	44,554,414	11,135.95	44,543,809	2.7500	2022/3/20	1.53
アラブ首長国連邦	国債証券	ABU DHABI GOVT INT'L	400,000	11,103.90	44,415,624	11,105.59	44,422,373	2.5000	2022/10/11	1.52
カタール	国債証券	STATE OF QATAR	400,000	10,992.15	43,968,619	11,003.26	44,013,057	2.3750	2021/6/2	1.51
スリランカ	国債証券	REPUBLIC OF SRI LANKA	400,000	10,731.40	42,925,608	10,819.09	43,276,375	5.7500	2023/4/18	1.48
ガーナ	国債証券	REPUBLIC OF GHANA	370,000	11,073.09	40,970,462	11,151.12	41,259,168	8.1250	2032/3/26	1.41
カザフスタン	国債証券	REPUBLIC OF KAZAKHSTAN	250,000	16,037.77	40,094,441	16,211.36	40,528,408	6.5000	2045/7/21	1.39

（注1）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額の比率です。

（注2）外貨建資産に属する銘柄の帳簿価額および評価額は、対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

## 2. 種類別及び業種別投資比率（2019年12月30日現在）

種類	投資比率（％）
国債証券	95.91
合計	95.91

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類の比率です。

### 投資不動産物件

該当事項はありません。

### その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

## 〈2〉パインブリッジ新成長国債券マザーファンド

### （1）投資状況

（2019年12月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	ブラジル	1,615,854,643	15.05
	メキシコ	1,436,194,392	13.37
	南アフリカ	979,890,069	9.12
	インドネシア	934,630,471	8.70
	コロンビア	763,054,224	7.11
	ロシア	697,634,451	6.50
	ポーランド	641,075,609	5.97
	タイ	626,581,275	5.83
	トルコ	450,875,550	4.20
	チリ	417,846,502	3.89
	エジプト	409,110,893	3.81
	マレーシア	370,521,827	3.45

	ハンガリー	306,460,222	2.85
	チェコ	269,113,463	2.51
	ペルー	120,853,802	1.13
	ウルグアイ	108,922,681	1.01
	小計	10,148,620,074	94.51
	現金・預金・その他の資産（負債控除後）	589,962,152	5.49
	合計（純資産総額）	10,738,582,226	100.00

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。

## （２）投資資産

### 投資有価証券の主要銘柄

#### １．組入上位30銘柄（2019年12月30日現在）

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	利率 （％）	償還期限	投資 比率 （％）
メキシコ	国債証券	MEXICAN FIXED RATE BONDS	85,100,000	661.34	562,806,131	661.65	563,066,294	10.000	2024/12/5	5.24
ブラジル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL	15,700,000	3,068.71	481,787,713	3,129.90	491,395,647	10.000	2023/1/1	4.58
メキシコ	国債証券	MEXICAN BONOS DESARR FIX	47,000,000	732.48	344,269,238	749.90	352,456,290	10.000	2036/11/20	3.28
ブラジル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL)	9,500,000	3,127.20	297,084,289	3,026.83	287,548,903	12.500	2022/1/5	2.68
南アフリカ	国債証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	39,000,000	745.34	290,686,032	736.11	287,086,329	8.875	2035/2/28	2.67
コロンビア	国債証券	TITULOS DE TESORERIA B	7,200,000,000	4.01	289,006,426	3.93	283,661,210	10.000	2024/7/24	2.64
ブラジル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL	8,000,000	3,226.37	258,109,784	3,303.89	264,311,423	10.000	2027/1/1	2.46
インドネシア	国債証券	INDONESIA GOVERNMENT	34,000,000,000	0.73	250,466,814	0.74	253,552,783	6.125	2028/5/15	2.36
南アフリカ	国債証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	36,200,000	708.46	256,466,087	699.25	253,130,009	8.500	2037/1/31	2.36
タイ	国債証券	THAILAND GOVERNMENT	60,000,000	415.20	249,123,075	416.01	249,608,638	3.850	2025/12/12	2.32
インドネシア	国債証券	INDONESIA GOVERNMENT	28,000,000,000	0.84	235,213,020	0.84	237,237,000	8.375	2034/3/15	2.21
ブラジル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL	7,300,000	3,158.24	230,551,749	3,227.49	235,607,223	10.000	2025/1/1	2.19
チリ	国債証券	BONOS TESORERIA PESOS	1,420,000,000	16.14	229,249,568	16.36	232,369,042	4.500	2026/3/1	2.16
ハンガリー	国債証券	HUNGARY GOVERNMENT	480,000,000	46.21	221,826,939	45.90	220,329,252	5.500	2025/6/24	2.05
コロンビア	国債証券	TITULOS DE TESORERIA B	6,650,000,000	3.36	223,852,021	3.30	219,939,194	6.000	2028/4/28	2.05
エジプト	国債証券	EGYPT GOVERNMENT BOND	27,500,000	751.23	206,588,717	746.31	205,237,718	18.750	2022/5/23	1.91
エジプト	国債証券	EGYPT GOVERNMENT BOND	27,000,000	751.03	202,778,973	755.08	203,873,175	17.200	2023/8/9	1.90

ロシア	国債証券	RUSSIA GOVT BOND - OFZ	100,000,000	186.06	186,069,480	197.06	197,068,260	7.700	2033/3/23	1.84
メキシコ	国債証券	MEXICAN BONOS DESARR FIX	31,000,000	601.52	186,471,287	616.62	191,153,186	7.750	2042/11/13	1.78
ロシア	国債証券	RUSSIA GOVT BOND -OFZ	89,100,000	197.89	176,328,254	208.72	185,972,826	8.500	2031/9/17	1.73
ポーランド	国債証券	POLAND GOVERNMENT	6,000,000	3,128.06	187,684,022	3,096.89	185,813,989	5.750	2021/10/25	1.73
トルコ	国債証券	TURKEY GOVERNMENT BOND	9,800,000	1,728.53	169,396,141	1,813.44	177,718,002	10.700	2022/8/17	1.65
インドネシア	国債証券	INDONESIA GOVERNMENT	18,333,000,000	0.91	167,737,634	0.92	169,757,255	9.500	2041/5/15	1.58
ポーランド	国債証券	POLAND GOVERNMENT	5,300,000	3,222.51	170,793,288	3,192.07	169,179,837	5.750	2022/9/23	1.58
マレーシア	国債証券	MALAYSIAN GOVERNMENT	6,000,000	2,794.60	167,676,540	2,776.28	166,576,947	3.885	2029/8/15	1.55
トルコ	国債証券	TURKEY GOVERNMENT BOND	9,000,000	1,788.35	160,951,934	1,840.15	165,614,220	10.700	2021/2/17	1.54
マレーシア	国債証券	MALAYSIAN GOVERNMENT	6,000,000	2,739.77	164,386,411	2,753.44	165,206,700	3.955	2025/9/15	1.54
チェコ	国債証券	CZECH REPUBLIC	32,000,000	505.41	161,733,424	500.22	160,071,653	3.850	2021/9/29	1.49
南アフリカ	国債証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	22,000,000	726.06	159,733,728	723.61	159,195,138	8.250	2032/3/31	1.48
ブラジル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL	5,300,000	2,923.21	154,930,351	2,972.44	157,539,478	10.000	2021/1/1	1.47

（注1）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額の比率です。

（注2）外貨建資産に属する銘柄の帳簿価額および評価額は、対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

## 2. 種類別及び業種別投資比率（2019年12月30日現在）

種類	投資比率（％）
国債証券	94.51
合計	94.51

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類の比率です。

### 投資不動産物件

該当事項はありません。

### その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

## &lt; 参考情報 &gt;

## 基準価額・純資産の推移

(過去10年間/2009年12月末～2019年12月末)



※上記の分配金込み基準価額は、過去に支払われた分配金を非課税で再投資したものと計算しています。

## 分配の推移

(1万口あたり、課税前)

2019年11月	50円	2019年 5 月	50円	直近1年間累計	300円
2019年 9 月	50円	2019年 3 月	50円	設定来累計	6,430円
2019年 7 月	50円	2019年 1 月	50円		

## 主要な資産の状況

(2019年12月末現在)

パインブリッジ新成長国債券マザーファンドI	39.87%
パインブリッジ新成長国債券マザーファンドII	60.23%
キャッシュ等	△0.10%

## ● パインブリッジ新成長国債券マザーファンドIの主要な資産の状況

国名	銘柄名	クーポン (%)	償還日	投資比率 (%)
バーレーン	KINGDOM OF BAHRAIN	7.0000	2028/10/12	4.14
スリランカ	REPUBLIC OF SRI LANKA	7.5500	2030/3/28	3.29
エジプト	ARAB REPUBLIC OF EGYPT	7.6003	2029/3/1	3.08
ホンジュラス	HONDURAS GOVERNMENT	6.2500	2027/1/19	2.66
ドミニカ共和国	REPUBLIC OF DOMINICAN	6.6000	2024/1/28	2.62

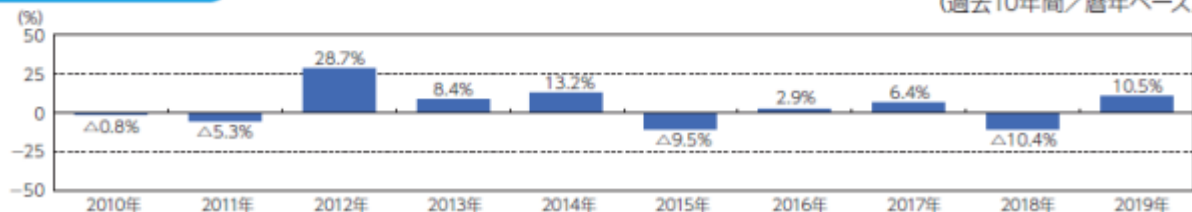
※投資比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。(以下同じ)

## ● パインブリッジ新成長国債券マザーファンドIIの主要な資産の状況

国名	銘柄名	クーポン (%)	償還日	投資比率 (%)
メキシコ	MEXICAN FIXED RATE BONDS	10.0000	2024/12/5	5.24
ブラジル	REPUBLIC OF BRAZIL	10.0000	2023/1/1	4.58
メキシコ	MEXICAN BONOS DESARR FIX	10.0000	2036/11/20	3.28
ブラジル	REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL)	12.5000	2022/1/5	2.68
南アフリカ	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.8750	2035/2/28	2.67

## 年間収益率の推移

(過去10年間/暦年ベース)



※ファンドの収益率は分配金込み基準価額を基に算出しています。なお、当ファンドにはベンチマークはありません。

上記は過去の実績であり、将来の投資成果等をお約束するものではありません。  
最新の運用状況は、委託会社または販売会社のホームページ等でご確認いただけます。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

#### （1）取得申込の受付

申込期間：2020年2月22日（土）から2021年2月24日（水）まで

申込期間は、当該期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

受益権の取得申込は、原則として、申込期間中の販売会社の営業日に受付けます。ただし、取得申込日がロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合は、取得申込の受付を行いません。取得申込の受付は、原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。これら受付時間を過ぎてからの取得申込は翌営業日のお取扱いとなります。

運用の基本方針等の観点から受益者にとって不利益と判断する場合には、委託会社の判断で取得申込を受付けない場合があります。また、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、取得申込の受付を中止すること、およびすでに受付けた取得申込を取消することができます。

取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

#### （2）申込単位・申込価額

収益分配金の受取方法により、収益分配金を受取る「分配金受取りコース」と分配金を税引き後再投資する「分配金再投資コース」の2つの申込コースがあります。取得申込時にいずれかの申込コースを選択いただきます。なお、原則として、取得申込手続完了後の申込コースの変更はできません。

<分配金受取りコース>：1万円以上1円単位

<分配金再投資コース>：1万円以上1円単位

受益権の申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、当該基準価額に2.2%（税抜2.0%）の率を乗じて得た額を上限として、販売会社が独自に定める申込手数料を加算した価額とします。なお、収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.pinebridge.co.jp/>

### 2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。受益者が一部解約の請求をするときは、振替受益権をもって行うものとします。

一部解約の実行請求の受付は、原則として、販売会社の営業日に受付けます。ただし、解約請求日がロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合には、解約請求の受付は行いません。解約請求の受付は、原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。これら受付時間を過ぎてからの解約請求は翌営業日のお取扱いとなります。

一部解約の価額は、一部解約の実行請求を受付けた日の翌営業日の基準価額とし、委託会社の営業日に日々算出されます。一部解約の価額は、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.pinebridge.co.jp/>

委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行請求の受付を中止すること、およびすでに受付けた一部解約の実行請求を取消することができます。



一部解約の実行請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行請求を受付けたものとして、前記の規定に準じて算出された価額とします。

解約代金のお支払いは、解約請求を受付けた日から起算して、原則として6営業日目から、販売会社を通じてお支払いします。

解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの投資信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

基準価額とは、信託財産に属する資産を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除して得た額をいいます。

マザーファンド受益証券の評価は、原則として計算日における基準価額により評価します。実質組入外国債券の評価は、原則として計算日の前営業日付の証券会社、銀行等が提示する価額（ただし、売気配相場を除く）、または価格情報会社の提供する価額のいずれかにより評価します。外貨建て資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

基準価額は、委託会社の営業日に日々算出され、委託会社および販売会社で1万口当たりの価額として発表されます。基準価額については、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.pinebridge.co.jp/>

#### (2)【保管】

ファンドの受益権は、2007年1月4日より、振替制度に移行しており、受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しません。

#### (3)【信託期間】

無期限とします。ただし、信託期間を繰上げて償還することがあります。（後記（5）その他 信託の終了をご参照ください。）

#### (4)【計算期間】

原則として、毎年1月26日から3月25日、3月26日から5月25日、5月26日から7月25日、7月26日から9月25日、9月26日から11月25日、11月26日から翌年1月25日とします。

ただし、各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日はその翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとします。

#### (5)【その他】

信託の終了

##### 1) 投資信託契約の解約

1. 委託会社は、この投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき、もしくは投資信託契約の一部解約により、受益権の口数が5億口を下回るようになった場合には、受託会社と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

2. 委託会社は、前記1.の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
  3. 前記2.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
  4. 前記3.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1.の投資信託契約の解約をしません。
  5. 委託会社は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときには、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
  6. 前記3.から5.までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記3.の一定期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
- 2) 投資信託契約に関する監督官庁の命令等による場合の信託終了
    1. 委託会社は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。
    2. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、監督官庁が、この投資信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後記 信託約款の変更4)に該当する場合を除き、当該委託会社と受託会社との間において存続します。
  - 3) 受託会社の辞任および解任の場合の信託終了  
受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は信託約款の規定にしたがい新受託会社を選任します。なお、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。
- 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い
- 1) 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
  - 2) 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。
- 信託約款の変更
- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
  - 2) 委託会社は、前記1)の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
  - 3) 前記2)の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
  - 4) 前記3)の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1)の信託約款を変更しません。
  - 5) 委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつこれらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

- 6) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記1)から5)までの規定にしたがいます。

#### 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

#### 反対者の買取請求権

ファンドの投資信託契約の解約または信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

#### 運用報告書

委託会社は、原則として6ヵ月毎（毎年5月、11月）および償還時に交付運用報告書および運用報告書（全体版）を作成し、交付運用報告書は知られたる受益者に対して交付します。運用報告書（全体版）は受益者の請求により交付されますので、請求される受益者の方は販売会社までお問い合わせください。また、委託会社のホームページにて入手することもできます。

また、このほか運用状況等に関するレポートを定期的に作成・更新しており、各販売会社または委託会社のホームページにて入手することができます。

委託会社ホームページ <https://www.pinebridge.co.jp/>

#### 信託事務処理の再信託

受託会社は、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

#### 関係会社との契約の更改

##### 1) 販売会社との契約

委託会社と販売会社との間で締結される「受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約」には、販売会社の行う受益権の募集、一部解約請求、収益分配金および償還金の支払い等の取扱い等が規定されています。なお、契約の有効期間は1年とし、期間満了の3ヵ月前までに、いずれからも別段の意思表示がない場合は自動更新となります。

##### 2) マザーファンドの投資顧問会社との契約

委託会社と委託会社がマザーファンドの信託財産の運用にかかる指図権を委託するものとの間に締結する契約で、マザーファンドの信託財産の運用委託権限の範囲、議決権行使の指図、発注権限、運用状況の報告内容、報酬等が定められています。なお、契約の有効期間は1年とし、期間満了の3ヵ月前までに、いずれからも別段の意思表示がない場合は自動更新となります。

## 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は、次の通りです。

#### 収益分配金に対する請求権

受益者は、収益分配金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて請求する権利を有します。

<分配金受取りコース>の収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、決算日後1ヵ月以内の委託会社が指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）からお支払いします。

なお、受益者が支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、収益分配金を請求する権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

<分配金再投資コース>の収益分配金は、原則として、税引き後、無手数料で決算日の翌営業日に自動的に再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

#### 一部解約の実行請求権

受益者は、信託財産の一部解約の実行を請求する権利を有します。一部解約金は、原則として受益者の請求を受付けた日から起算して6営業日目から、販売会社を通じてお支払いします。

#### 償還金に対する請求権

受益者は、償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて請求する権利を有します。

償還金は、償還日において振替機関の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に、償還日後1ヵ月以内の委託会社が指定する日（原則として償還日から起算して5営業日まで）から販売会社を通じてお支払いします。

なお、受益者が支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、償還金を請求する権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

#### 反対者の買取請求権

信託約款の変更の内容が重大なものに該当するとき、または投資信託契約の解約が行われる場合、所定期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって公正な価額で買取すべき旨を請求することができます。

#### 帳簿書類の閲覧・謄写請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づき作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

(3)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第28特定期間(2019年5月28日から2019年11月25日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

## 1【財務諸表】

## パインブリッジ新成長国債インカムオープン

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第27特定期間 (2019年5月27日現在)	第28特定期間 (2019年11月25日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	21,674,297	15,857,254
親投資信託受益証券	1,380,056,201	1,301,793,169
未収入金	-	10,000,000
流動資産合計	1,401,730,498	1,327,650,423
資産合計		
	1,401,730,498	1,327,650,423
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	11,672,146	10,847,106
未払解約金	1,156,498	6,249,461
未払受託者報酬	186,157	172,470
未払委託者報酬	4,068,816	3,769,650
未払利息	29	21
流動負債合計	17,083,646	21,038,708
負債合計		
	17,083,646	21,038,708
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	2,334,429,370	2,169,421,201
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	949,782,518	862,809,486
（分配準備積立金）	174,192,214	165,233,922
元本等合計	1,384,646,852	1,306,611,715
純資産合計		
	1,384,646,852	1,306,611,715
負債純資産合計		
	1,401,730,498	1,327,650,423

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第27特定期間 自 2018年11月27日 至 2019年 5月27日	第28特定期間 自 2019年 5月28日 至 2019年11月25日
<b>営業収益</b>		
有価証券売買等損益	37,800,855	67,736,968
<b>営業収益合計</b>	<b>37,800,855</b>	<b>67,736,968</b>
<b>営業費用</b>		
支払利息	1,614	1,470
受託者報酬	551,357	520,997
委託者報酬	12,051,023	11,387,419
<b>営業費用合計</b>	<b>12,603,994</b>	<b>11,909,886</b>
<b>営業利益又は営業損失（ ）</b>	<b>25,196,861</b>	<b>55,827,082</b>
<b>経常利益又は経常損失（ ）</b>	<b>25,196,861</b>	<b>55,827,082</b>
<b>当期純利益又は当期純損失（ ）</b>	<b>25,196,861</b>	<b>55,827,082</b>
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	1,254,218	331,422
<b>期首剰余金又は期首欠損金（ ）</b>	<b>999,160,561</b>	<b>949,782,518</b>
<b>剰余金増加額又は欠損金減少額</b>	<b>63,391,622</b>	<b>67,102,479</b>
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	63,391,622	67,102,479
<b>剰余金減少額又は欠損金増加額</b>	<b>2,182,608</b>	<b>1,968,076</b>
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	2,182,608	1,968,076
<b>分配金</b>	<b>35,773,614</b>	<b>33,657,031</b>
<b>期末剰余金又は期末欠損金（ ）</b>	<b>949,782,518</b>	<b>862,809,486</b>



## (3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日の取扱い 2019年5月25日及びその翌日が休日のため、前特定期間末日を2019年5月27日としており、このため当特定期間は182日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第27特定期間 (2019年5月27日現在)	第28特定期間 (2019年11月25日現在)
1. 期首元本額	2,488,404,280円	2,334,429,370円
期中追加設定元本額	5,508,026円	4,970,531円
期中一部解約元本額	159,482,936円	169,978,700円
2. 受益権の総数	2,334,429,370口	2,169,421,201口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は949,782,518円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は862,809,486円であります。

## ( 損益及び剰余金計算書に関する注記 )

項目	第27特定期間		第28特定期間	
	自	2018年11月27日 至 2019年 5月27日	自	2019年 5月28日 至 2019年11月25日
1. 投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託する場合における当該委託に要する費用		2,686,679円		2,524,483円
2. 分配金の計算過程				
		[2018年11月27日から 2019年 1月25日まで の計算期間]		[2019年5月28日から 2019年7月25日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額		15,288,700円		16,921,719円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額		0円		0円
収益調整金額		5,372,055円		5,455,790円
分配準備積立金額		179,421,070円		172,130,036円
当ファンドの分配対象収益額		200,081,825円		194,507,545円
当ファンドの期末残存口数		2,449,409,017口		2,308,534,540口
1万口当たり収益分配対象額		816.85円		842.55円
1万口当たり分配金額		50.00円		50.00円
収益分配金金額		12,247,045円		11,542,672円
		[2019年1月26日から 2019年3月25日まで の計算期間]		[2019年7月26日から 2019年9月25日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額		12,952,449円		10,736,289円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額		0円		0円
収益調整金額		5,335,352円		5,443,132円
分配準備積立金額		176,479,623円		173,157,856円
当ファンドの分配対象収益額		194,767,424円		189,337,277円
当ファンドの期末残存口数		2,370,884,626口		2,253,450,796口
1万口当たり収益分配対象額		821.49円		840.21円
1万口当たり分配金額		50.00円		50.00円
収益分配金金額		11,854,423円		11,267,253円
		[2019年3月26日から 2019年5月27日まで の計算期間]		[2019年 9月26日から 2019年11月25日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額		11,145,488円		10,015,094円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額		0円		0円
収益調整金額		5,383,561円		5,365,773円
分配準備積立金額		174,718,872円		166,065,934円
当ファンドの分配対象収益額		191,247,921円		181,446,801円
当ファンドの期末残存口数		2,334,429,370口		2,169,421,201口
1万口当たり収益分配対象額		819.24円		836.38円
1万口当たり分配金額		50.00円		50.00円
収益分配金金額		11,672,146円		10,847,106円

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

項目	第27特定期間 自 2018年11月27日 至 2019年 5月27日	第28特定期間 自 2019年 5月28日 至 2019年11月25日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、投資信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対する投資として運用することを目的としています。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する主な金融資産は、親投資信託受益証券、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等であります。 当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用業務部において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。</li> <li>・法務コンプライアンス部において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。</li> <li>・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。</li> </ul>	同左

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第27特定期間 (2019年5月27日現在)	第28特定期間 (2019年11月25日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。  (2) デリバティブ取引 該当事項はありません。  (3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左  (2) デリバティブ取引 同左  (3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
4. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額	貸借対照表に計上している金銭債権は、その全額が1年以内に償還されます。	同左

## (有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	第27特定期間 (2019年5月27日現在)	第28特定期間 (2019年11月25日現在)
	最終の計算期間の損益 に含まれた評価差額	最終の計算期間の損益 に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	14,598,768	18,157,576
合計	14,598,768	18,157,576

## (デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

項目	第27特定期間 (2019年5月27日現在)	第28特定期間 (2019年11月25日現在)
1口当たり純資産額	0.5931円	0.6023円
(1万口当たり純資産額)	(5,931円)	(6,023円)

#### (4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表（2019年11月25日現在）

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
日本円	親投資信託 受益証券	パインブリッジ新成長国債マザーファンド	211,165,787	518,580,939	
		パインブリッジ新成長国債マザーファンド	479,498,121	783,212,230	
合計			690,663,908	1,301,793,169	

(注)親投資信託受益証券における券面総額の数値は証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは「パインブリッジ新成長国債マザーファンド」および「パインブリッジ新成長国債マザーファンド」の各受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、同マザーファンドの状況は次の通りです。

### 「パインブリッジ新成長国債マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外です。

#### (1)貸借対照表

区分	注記事項	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
		金額（円）	金額（円）
資産の部			
流動資産			
預金		114,789,698	155,594,768
コール・ローン		19,455,142	14,099,700
国債証券		2,869,990,968	2,745,109,701
未収利息		40,254,471	31,276,492
前払費用		7,067,080	6,820,476
流動資産合計		3,051,557,359	2,952,901,137
資産合計		3,051,557,359	2,952,901,137
負債の部			
流動負債			
未払金		51,456,021	109,140,510
未払解約金		-	4,000,000
未払利息		26	19
流動負債合計		51,456,047	113,140,529
負債合計		51,456,047	113,140,529
純資産の部			
元本等			
元本		1,270,320,863	1,156,356,351
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）		1,729,780,449	1,683,404,257
元本等合計		3,000,101,312	2,839,760,608
純資産合計		3,000,101,312	2,839,760,608
負債純資産合計		3,051,557,359	2,952,901,137

(注)親投資信託の計算期間は、原則として、毎年3月21日から9月20日まで、および9月21日から翌年3月20日までであります。

## (2)注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券 個別法に基づき、原則として金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない。）または価格情報会社の提供する価額で時価評価しております。</p>
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、我が国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
1. 期首元本額	1,401,686,382円	1,270,320,863円
期中追加設定元本額	- 円	- 円
期中一部解約元本額	131,365,519円	113,964,512円
元本の内訳		
ファンド名		
パインブリッジ新成長国債債券プラス	1,034,325,904円	945,190,564円
パインブリッジ新成長国債インカムオープン	235,994,959円	211,165,787円
合計	1,270,320,863円	1,156,356,351円
2. 受益権の総数	1,270,320,863口	1,156,356,351口



## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2018年11月27日 至 2019年 5月27日	自 2019年 5月28日 至 2019年11月25日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、投資信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対する投資として運用することを目的としています。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する主な金融資産は、国債証券、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等でありませぬ。 当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用業務部において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。</li> <li>・法務コンプライアンス部において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。</li> <li>・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。</li> </ul>	同左

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1) 有価証券 同左</p> <p>(2) デリバティブ取引 同左</p> <p>(3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
4. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額	貸借対照表に計上している金銭債権は、その全額が1年以内に償還されます。	同左

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

（単位：円）

種類	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
	当計算期間の損益 に含まれた評価差額	当計算期間の損益 に含まれた評価差額
国債証券	26,185,531	71,982,330
合計	26,185,531	71,982,330

(注)当計算期間の損益に含まれた評価差額は、当親投資信託の計算期間の開始日から本報告書における監査対象ファンドの特定期間末日までの期間に対応する金額であります。

## （デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報に関する注記）

項目	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
1口当たり純資産額	2.3617円	2.4558円
(1万口当たり純資産額)	(23,617円)	(24,558円)

## (3)附属明細表

## 第1 有価証券明細表（2019年11月25日現在）

## (1)株式

該当事項はありません。

## (2)株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
米国ドル	国債証券	ABU DHABI GOVT INT L 3.1250% 10/11/2027	600,000.00	629,209.20	
		ABU DHABI GOVT INT'L 2.5000% 10/11/2022	400,000.00	404,687.20	
		ABU DHABI GOVT INT'L 2.5000% 09/30/2029	450,000.00	447,295.50	
		ARAB REPUBLIC OF EGYPT 7.6003% 03/01/2029	750,000.00	797,437.50	
		ARAB REPUBLIC OF EGYPT 8.5000% 01/31/2047	379,000.00	400,365.36	
		FED REPUBLIC OF BRAZIL 4.7500% 01/14/2050	270,000.00	261,900.00	
		HONDURAS GOVERNMENT 6.2500% 01/19/2027	650,000.00	696,312.50	
		KINGDOM OF BAHRAIN 7.0000% 10/12/2028	380,000.00	436,580.48	
		KINGDOM OF BAHRAIN 5.6250% 09/30/2031	200,000.00	208,605.80	
		KINGDOM OF BAHRAIN 7.5000% 09/20/2047	250,000.00	293,977.50	
		KUWAIT INTL BOND 2.7500% 03/20/2022	400,000.00	406,252.40	
		MONGOLIA INTL BOND 5.1250% 12/05/2022	300,000.00	307,580.96	
		MONGOLIA INTL BOND 5.6250% 05/01/2023	300,000.00	309,721.39	
		REPUBLIC OF ANGOLA 8.0000% 11/26/2029	480,000.00	480,900.00	
		REPUBLIC OF ANGOLA 9.3750% 05/08/2048	210,000.00	216,213.27	
		REPUBLIC OF BRAZIL 10.1250% 05/15/2027	400,000.00	569,500.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL 5.6250% 01/07/2041	300,000.00	331,125.00	
		REPUBLIC OF COLOMBIA 2.6250% 03/15/2023	560,000.00	559,479.20	
		REPUBLIC OF COLOMBIA 3.8750% 04/25/2027	250,000.00	264,127.50	
		REPUBLIC OF COLOMBIA 5.0000% 06/15/2045	200,000.00	230,300.00	
		REPUBLIC OF COTE D'IVOIRE 5.7500% 12/31/2032	466,400.00	460,041.56	
		REPUBLIC OF DOMINICAN 6.6000% 01/28/2024	628,000.00	693,940.00	
		REPUBLIC OF DOMINICAN 6.8500% 01/27/2045	300,000.00	328,950.00	
		REPUBLIC OF ECUADOR 10.7500% 03/28/2022	450,000.00	367,452.90	
		REPUBLIC OF ECUADOR 7.8750% 01/23/2028	800,000.00	578,278.00	
		REPUBLIC OF ECUADOR 10.7500% 01/31/2029	550,000.00	419,566.12	
		REPUBLIC OF GHANA 10.7500% 10/14/2030	220,000.00	276,397.00	
		REPUBLIC OF GHANA 8.1250% 03/26/2032	370,000.00	365,999.56	
		REPUBLIC OF GHANA 8.9500% 03/26/2051	220,000.00	216,668.10	
		REPUBLIC OF GUATEMALA 4.3750% 06/05/2027	300,000.00	305,520.00	
		REPUBLIC OF GUATEMALA 4.8750% 02/13/2028	500,000.00	525,000.00	
		REPUBLIC OF GUATEMALA 4.9000% 06/01/2030	200,000.00	209,920.00	
		REPUBLIC OF KAZAKHSTAN 6.5000% 07/21/2045	250,000.00	363,460.00	
		REPUBLIC OF KENYA 6.8750% 06/24/2024	300,000.00	319,971.00	
		REPUBLIC OF LEBANESE 6.6500% 02/26/2030	350,000.00	165,067.00	
		REPUBLIC OF NIGERIA 6.5000% 11/28/2027	260,000.00	260,455.00	
		REPUBLIC OF NIGERIA 7.6250% 11/28/2047	200,000.00	190,750.00	
		REPUBLIC OF PANAMA 9.3750% 04/01/2029	350,000.00	534,187.50	
		REPUBLIC OF PANAMA 4.5000% 05/15/2047	270,000.00	317,925.00	
		REPUBLIC OF PANAMA 3.8700% 07/23/2060	200,000.00	211,500.00	
		REPUBLIC OF PERU 6.5500% 03/14/2037	200,000.00	290,250.00	
		REPUBLIC OF PERU 5.6250% 11/18/2050	180,000.00	261,000.00	
		REPUBLIC OF PHILIPPINES 7.7500% 01/14/2031	320,000.00	471,609.76	
REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 5.3750% 07/24/2044	200,000.00	189,000.00			

		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 5.7500% 09/30/2049	530,000.00	510,125.00
		REPUBLIC OF SRI LANKA 7.5500% 03/28/2030	880,000.00	894,492.38
		REPUBLIC OF TURKEY 6.8750% 03/17/2036	510,000.00	518,892.36
		REPUBLIC OF TURKEY 5.7500% 05/11/2047	400,000.00	350,500.00
		REPUBLICA ORIENT URUGUAY 5.1000% 06/18/2050	270,000.00	319,275.00
		RUSSIAN FEDERATION 4.7500% 05/27/2026	200,000.00	221,932.00
		RUSSIAN FEDERATION 4.3750% 03/21/2029	400,000.00	438,582.00
		RUSSIAN FEDERATION 7.5000% 03/31/2030	234,500.00	268,058.12
		RUSSIAN FEDERATION 5.2500% 06/23/2047	200,000.00	244,815.60
		SAUDI INTERNATIONAL BOND 4.3750% 04/16/2029	400,000.00	447,101.60
		SAUDI INTERNATIONAL BOND 4.5000% 10/26/2046	300,000.00	333,000.00
		STATE OF QATAR 2.3750% 06/02/2021	400,000.00	401,476.00
		STATE OF QATAR 4.5000% 04/23/2028	500,000.00	572,373.00
		STATE OF QATAR 5.1030% 04/23/2048	500,000.00	638,558.00
		UKRAINE GOVERNMENT 7.7500% 09/01/2023	300,000.00	320,399.70
		UKRAINE GOVERNMENT 7.7500% 09/01/2024	310,000.00	330,490.38
		UKRAINE GOVERNMENT 9.7500% 11/01/2028	500,000.00	585,688.50
		UNITED MEXICAN STATES 3.7500% 01/11/2028	300,000.00	310,800.00
		UNITED MEXICAN STATES 4.3500% 01/15/2047	500,000.00	518,430.00
		UNITED MEXICAN STATES 4.6000% 02/10/2048	400,000.00	429,000.00
	計		23,847,900.00	25,228,468.90
				(2,745,109,701)
小計				25,228,468.90
				(2,745,109,701)
合計				2,745,109,701
				(2,745,109,701)

- (注) 1. 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。  
 2. 合計欄の記載は邦貨額であり、( )内は外貨建有価証券に係るもので、内書であります。  
 3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
米国ドル	国債証券 64銘柄	100.0%	100.0%

第2 信用取引契約残高明細表  
 該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表  
 該当事項はありません。

## 「パインブリッジ新成長国債券マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外です。

## (1)貸借対照表

区分	注記 事項	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
		金額（円）	金額（円）
資産の部			
流動資産			
預金		734,399,903	389,899,724
コール・ローン		47,358,251	34,812,681
国債証券		10,231,049,881	9,836,831,458
派生商品評価勘定		259,645	1,899,230
未収入金		-	345,657,839
未収利息		181,174,596	164,948,137
前払費用		25,845,109	20,561,548
流動資産合計		11,220,087,385	10,794,610,617
資産合計		11,220,087,385	10,794,610,617
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		117,040	1,441,703
未払金		265,965,787	231,950,279
未払解約金		-	16,000,000
未払利息		64	47
流動負債合計		266,082,891	249,392,029
負債合計		266,082,891	249,392,029
純資産の部			
元本等			
元本		7,083,863,633	6,456,095,264
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）		3,870,140,861	4,089,123,324
元本等合計		10,954,004,494	10,545,218,588
純資産合計		10,954,004,494	10,545,218,588
負債純資産合計		11,220,087,385	10,794,610,617

(注) 親投資信託の計算期間は、原則として、毎年3月21日から9月20日まで、および9月21日から翌年3月20日までであります。

## (2)注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券 個別法に基づき、原則として金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない。）または価格情報会社の提供する価額で時価評価しております。</p>
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、我が国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
1. 期首元本額	7,728,922,566円	7,083,863,633円
期中追加設定元本額	4,486,872円	- 円
期中一部解約元本額	649,545,805円	627,768,369円
元本の内訳		
ファンド名		
パインブリッジ新成長国債券プラス	6,345,362,912円	5,792,032,577円
パインブリッジ新成長国債インカムオープン	532,048,702円	479,498,121円
パインブリッジ新成長国ダブルプラス <毎月分配タイプ>	163,829,657円	142,574,339円
パインブリッジ新成長国ダブルプラス <1年決算タイプ>	42,622,362円	41,990,227円
合計	7,083,863,633円	6,456,095,264円
2. 受益権の総数	7,083,863,633口	6,456,095,264口

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2018年11月27日 至 2019年 5月27日	自 2019年 5月28日 至 2019年11月25日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、投資信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対する投資として運用することを目的としています。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する主な金融資産は、国債証券、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等でありませぬ。 当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用業務部において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。</li> <li>・法務コンプライアンス部において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。</li> <li>・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。</li> </ul>	同左



## 金融商品の時価等に関する事項

項目	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 「（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。</p> <p>(3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1) 有価証券 同左</p> <p>(2) デリバティブ取引 同左</p> <p>(3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、「（デリバティブ取引等に関する注記）」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p>	同左
4. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額	貸借対照表に計上している金銭債権は、その全額が1年以内に償還されます。	同左

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

（単位：円）

種類	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
	当計算期間の損益 に含まれた評価差額	当計算期間の損益 に含まれた評価差額
国債証券	57,331,123	6,360,479
合計	57,331,123	6,360,479

(注)当計算期間の損益に含まれた評価差額は、当親投資信託の計算期間の開始日から本報告書における監査対象ファンドの特定期間末日までの期間に対応する金額であります。

## （デリバティブ取引等に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

## 通貨関連

区分	種類	(2019年5月27日現在)			
		契約額等 (円)	うち1年超 (円)	時価 (円)	評価損益 (円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米国ドル	109,599,863	-	109,340,218	259,645
	買建 タイ・パーツ	109,599,863	-	109,482,823	117,040
合計		219,199,726	-	218,823,041	142,605

区分	種類	(2019年11月25日現在)			
		契約額等 (円)	うち1年超 (円)	時価 (円)	評価損益 (円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米国ドル	53,097,050	-	53,263,560	166,510
	チェコ・コロナ	120,529,881	-	120,273,979	255,902
	タイ・パーツ	228,259,621	-	229,534,814	1,275,193
	買建 米国ドル	348,789,502	-	350,316,028	1,526,526
	ペルー・ヌエボ・ソル	53,097,050	-	53,213,852	116,802
合計		803,773,104	-	806,602,233	457,527

## (注)時価の算定方法

1. 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。

計算期間末日において当該日の対顧客先物売買相場が発表されていない場合は、以下の方法によっています。

- ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
  - ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いています。
2. 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しています。
  3. 換算において円未満の端数は切り捨てています。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

項目	(2019年5月27日現在)	(2019年11月25日現在)
1口当たり純資産額	1.5463円	1.6334円
(1万口当たり純資産額)	(15,463円)	(16,334円)

## (3) 附属明細表

## 第1 有価証券明細表（2019年11月25日現在）

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
アルゼンチン・ペソ	国債証券	REPUBLIC OF ARGENTINA 0.0000% 06/21/2020	34,300,000.00	16,721,250.00	
		REPUBLIC OF ARGENTINA 0.0000% 10/17/2023	12,000,000.00	2,940,000.00	
	計	46,300,000.00	19,661,250.00		
				(35,783,475)	
	小計			19,661,250.00	
				(35,783,475)	
メキシコ・ペソ	国債証券	MEXICAN BONOS DESARR FIX 10.0000% 11/20/2036	47,000,000.00	59,618,090.00	
		MEXICAN BONOS DESARR FIX 7.7500% 11/13/2042	31,000,000.00	32,424,450.00	
		MEXICAN FIXED RATE BONDS 10.0000% 12/05/2024	85,100,000.00	96,450,638.00	
		MEXICAN FIXED RATE BONDS 5.7500% 03/05/2026	20,000,000.00	18,822,600.00	
		MEXICAN FIXED RATE BONDS 8.5000% 05/31/2029	17,000,000.00	18,738,590.00	
	計	200,100,000.00	226,054,368.00		
			(1,272,686,091)		
小計			226,054,368.00		
				(1,272,686,091)	
ブラジル・リアル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2021	5,300,000.00	5,799,676.52	
		REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2023	15,700,000.00	18,095,229.99	
		REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2025	7,300,000.00	8,699,688.42	
		REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2027	8,000,000.00	9,779,005.28	
		REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 12.5000% 01/05/2022	9,500,000.00	10,793,140.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 10.2500% 01/10/2028	3,500,000.00	4,320,207.50	
	計	49,300,000.00	57,486,947.71		
			(1,490,636,554)		
小計			57,486,947.71		
				(1,490,636,554)	
チリ・ペソ	国債証券	BONDS TESORERIA PESOS 0.0000% 01/01/2043	360,000,000.00	488,538,000.00	
		BONOS TESORERIA PESOS 0.0000% 03/01/2026	710,000,000.00	782,988,411.80	
	計	1,070,000,000.00	1,271,526,411.80		
			(173,181,897)		
小計			1,271,526,411.80		
				(173,181,897)	
コロンビア・ペソ	国債証券	REP OF COLOMBIA(DUAL) 4.3750% 03/21/2023	3,500,000,000.00	3,426,941,000.00	
		TITULOS DE TESORERIA B 11.0000% 07/24/2020	4,000,000,000.00	4,181,400,680.00	
		TITULOS DE TESORERIA B 10.0000% 07/24/2024	7,200,000,000.00	8,526,797,064.00	
		TITULOS DE TESORERIA B 6.0000% 04/28/2028	6,650,000,000.00	6,598,496,215.50	
		TITULOS DE TESORERIA B 7.0000% 06/30/2032	3,500,000,000.00	3,657,254,475.00	
	計	24,850,000,000.00	26,390,889,434.50		
			(839,230,284)		
小計			26,390,889,434.50		
				(839,230,284)	
ペルー・ヌエボ・ソル	国債証券	BONOS DE TESORERIA 6.1500% 08/12/2032	3,700,000.00	4,165,213.87	
		BONOS DE TESORERIA 5.4000% 08/12/2034	3,470,000.00	3,644,236.88	
	計	7,170,000.00	7,809,450.75		

						(250,683,369)
						7,809,450.75
						(250,683,369)
小計						
ウルグアイ・ペソ	国債証券	REPUBLICA ORIENT URUGUAY	9.8750%	06/20/2022	19,000,000.00	18,454,700.00
		REPUBLICA ORIENT URUGUAY	8.5000%	03/15/2028	21,000,000.00	17,958,527.79
		計			40,000,000.00	36,413,227.79
						(104,870,096)
小計						36,413,227.79
						(104,870,096)
トルコ・リラ	国債証券	TURKEY GOVERNMENT	10.6000%	02/11/2026	3,200,000.00	3,027,200.00
		TURKEY GOVERNMENT BOND	10.7000%	02/17/2021	9,000,000.00	8,950,500.00
		TURKEY GOVERNMENT BOND	10.7000%	08/17/2022	9,800,000.00	9,640,750.00
		計			22,000,000.00	21,618,450.00
						(411,831,472)
小計						21,618,450.00
						(411,831,472)
チェコ・コルナ	国債証券	CZECH REPUBLIC	3.8500%	09/29/2021	32,000,000.00	33,412,752.00
		CZECH REPUBLIC	2.5000%	08/25/2028	21,000,000.00	22,832,250.00
		計			53,000,000.00	56,245,002.00
						(264,913,959)
小計						56,245,002.00
						(264,913,959)
ハンガリー・フォロント	国債証券	HUNGARY GOVERNMENT	5.5000%	06/24/2025	480,000,000.00	596,496,000.00
		HUNGARY GOVERNMENT BOND	2.5000%	10/24/2024	400,000,000.00	431,174,196.00
		HUNGARY GOVERNMENT BOND	3.0000%	10/27/2027	130,000,000.00	144,893,275.80
		HUNGARY GOVERNMENT BOND	3.0000%	08/21/2030	80,000,000.00	88,302,752.80
		計			1,090,000,000.00	1,260,866,224.60
						(452,020,541)
小計						1,260,866,224.60
						(452,020,541)
ポーランド・ズロチ	国債証券	POLAND GOVERNMENT	5.7500%	10/25/2021	6,000,000.00	6,492,000.00
		POLAND GOVERNMENT	5.7500%	09/23/2022	5,300,000.00	5,908,970.00
		POLAND GOVERNMENT	2.5000%	07/25/2027	2,400,000.00	2,485,398.12
		POLAND GOVERNMENT	2.7500%	10/25/2029	3,500,000.00	3,720,298.71
		計			17,200,000.00	18,606,666.83
						(519,312,071)
小計						18,606,666.83
						(519,312,071)
ロシア・ルーブル	国債証券	RUSSIA GOVT BOND - OFZ	7.7000%	03/23/2033	100,000,000.00	110,847,000.00
		RUSSIA GOVT BOND -OFZ	6.4000%	05/27/2020	36,000,000.00	36,099,648.00
		RUSSIA GOVT BOND -OFZ	7.6000%	07/20/2022	78,000,000.00	81,344,250.00
		RUSSIA GOVT BOND -OFZ	7.1000%	10/16/2024	57,000,000.00	59,550,750.00
		RUSSIA GOVT BOND -OFZ	8.5000%	09/17/2031	89,100,000.00	104,856,444.00
		計			360,100,000.00	392,698,092.00
						(667,586,756)
小計						392,698,092.00
						(667,586,756)
マレーシア・リンギット	国債証券	MALAYSIAN GOVERNMENT	4.1810%	07/15/2024	1,400,000.00	1,455,861.65
		MALAYSIAN GOVERNMENT	3.9550%	09/15/2025	6,000,000.00	6,193,467.06
		MALAYSIAN GOVERNMENT	3.8850%	08/15/2029	6,000,000.00	6,228,893.82

	計			13,400,000.00	13,878,222.53
小計					(361,666,479)
					13,878,222.53
					(361,666,479)
タイ・パーツ	国債証券	THAILAND GOVERNMENT	3.8500% 12/12/2025	60,000,000.00	68,177,259.60
		THAILAND GOVERNMENT	2.8750% 12/17/2028	27,000,000.00	29,749,387.86
		THAILAND GOVERNMENT	4.8750% 06/22/2029	30,000,000.00	38,464,794.30
		THAILAND GOVERNMENT	3.7750% 06/25/2032	28,000,000.00	34,271,610.80
		THAILAND GOVERNMENT	3.4000% 06/17/2036	38,000,000.00	46,194,923.82
	計			183,000,000.00	216,857,976.38
小計					(780,688,714)
					216,857,976.38
					(780,688,714)
インドネシア・ルピア	国債証券	INDONESIA GOVERNMENT	11.0000% 09/15/2025	15,750,000,000.00	19,048,365,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	6.1250% 05/15/2028	34,000,000,000.00	31,992,300,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	9.0000% 03/15/2029	14,000,000,000.00	15,812,440,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	8.3750% 03/15/2034	28,000,000,000.00	30,332,400,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	9.5000% 05/15/2041	18,333,000,000.00	21,519,378,798.00
	計			110,083,000,000.00	118,704,883,798.00
小計					(925,898,093)
					118,704,883,798.00
					(925,898,093)
エジプト・ポンド	国債証券	EGYPT GOVERNMENT BOND	18.7500% 05/23/2022	27,500,000.00	29,951,737.75
		EGYPT GOVERNMENT BOND	17.2000% 08/09/2023	27,000,000.00	29,464,781.94
	計			54,500,000.00	59,416,519.69
小計					(401,061,507)
					59,416,519.69
					(401,061,507)
南アフリカ・ランド	国債証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.2500% 03/31/2032	22,000,000.00	20,049,386.72
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.8750% 02/28/2035	50,000,000.00	46,320,328.50
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.5000% 01/31/2037	36,200,000.00	31,948,125.74
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	9.0000% 01/31/2040	16,000,000.00	14,457,630.24
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.7500% 02/28/2048	8,000,000.00	6,951,200.00
	計			132,200,000.00	119,726,671.20
小計					(884,780,100)
					119,726,671.20
					(884,780,100)
合計					9,836,831,458
					(9,836,831,458)

(注)1. 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

2. 合計欄の記載は邦貨額であり、( )内は外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アルゼンチン・ペソ	国債証券 2銘柄	100.0%	0.4%
メキシコ・ペソ	国債証券 5銘柄	100.0%	12.9%
ブラジル・リアル	国債証券 6銘柄	100.0%	15.1%
チリ・ペソ	国債証券 2銘柄	100.0%	1.8%
コロンビア・ペソ	国債証券 5銘柄	100.0%	8.5%

ペルー・ヌエボ・ソル	国債証券	2銘柄	100.0%	2.5%
ウルグアイ・ペソ	国債証券	2銘柄	100.0%	1.1%
トルコ・リラ	国債証券	3銘柄	100.0%	4.2%
チェコ・コルナ	国債証券	2銘柄	100.0%	2.7%
ハンガリー・フォリント	国債証券	4銘柄	100.0%	4.6%
ポーランド・ズロチ	国債証券	4銘柄	100.0%	5.3%
ロシア・ルーブル	国債証券	5銘柄	100.0%	6.8%
マレーシア・リングgit	国債証券	3銘柄	100.0%	3.7%
タイ・バーツ	国債証券	5銘柄	100.0%	7.9%
インドネシア・ルピア	国債証券	5銘柄	100.0%	9.4%
エジプト・ポンド	国債証券	2銘柄	100.0%	4.1%
南アフリカ・ランド	国債証券	5銘柄	100.0%	9.0%

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「(2)注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

(2019年12月30日現在)

資産総額	1,337,450,329 円
負債総額	2,854,087 円
純資産総額（ - ）	1,334,596,242 円
発行済数量	2,136,995,853 口
1口当たり純資産額（ / ）	0.6245 円
（1万口当たりの純資産額）	（6,245 円）

(注) の資産には、有価証券の評価損益が含まれています。（以下同じ。）

## （ご参考）

## 《1》パインブリッジ新成長国債マザーファンド

(2019年12月30日現在)

資産総額	2,920,013,815 円
負債総額	52 円
純資産総額（ - ）	2,920,013,763 円
発行済数量	1,145,961,545 口
1口当たり純資産額（ / ）	2.5481 円
（1万口当たりの純資産額）	（25,481 円）

## 《2》パインブリッジ新成長国債マザーファンド

(2019年12月30日現在)

資産総額	10,738,582,252 円
負債総額	26 円
純資産総額（ - ）	10,738,582,226 円
発行済数量	6,325,030,142 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.6978 円
（1万口当たりの純資産額）	（16,978 円）

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、2007年1月4日より、振替受益権となっており、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

## (1) 名義書換

該当事項はありません。

## (2) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

## (3) 譲渡制限



該当事項はありません。

( 4 ) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前記の申請のある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

( 5 ) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

( 6 ) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

( 7 ) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。）に支払います。

( 8 ) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

### 第三部【委託会社等の情報】

#### 第1【委託会社等の概況】

##### 1【委託会社等の概況】

（2019年12月末日現在）

- ・ 資本金の額 1,000,000,000円
- ・ 会社が発行する株式の総数 50,000株
- ・ 発行済株式総数 42,000株
- ・ 資本金の額の増減（最近5年間）  
2018年 3月 5日 500,000,000円増加。

・ 会社の機構

##### （1）経営の意思決定

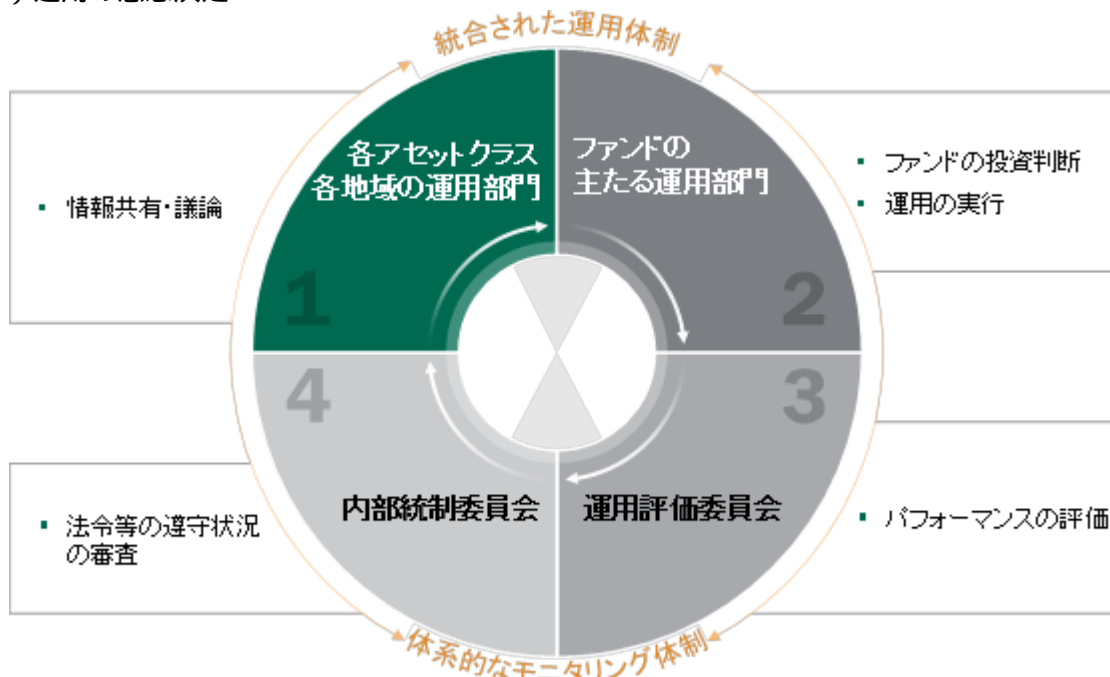
3名以上の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結時までとし、欠員の補充または増員により就任した取締役の任期は、他の取締役の残任期間と同一です。

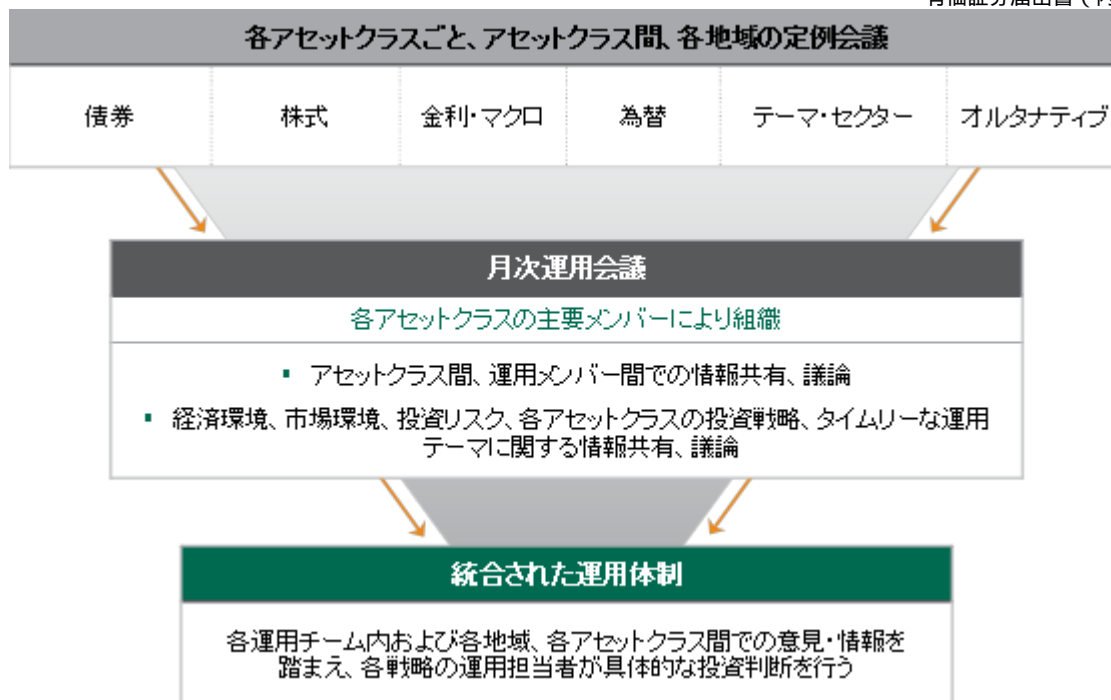
取締役会は、その決議をもって、代表取締役1名以上を選定します。また、会長、社長、副社長及びその他の役付取締役を選定することができます。

取締役会は、少なくとも3カ月に1回は開催します。取締役会は、当社の経営に関するすべての重要事項並びに法令もしくは定款によって定められた事項を決定します。取締役会の決議は、法律に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席のうえ、出席取締役の過半数の議決によって行います。

##### （2）運用の意思決定



運用判断を行うにあたり、下記の図のとおり、各運用チームごと、運用チーム間、各地域内、および各地域間、テーマごと等の各種定例会議において様々な情報共有、意見交換、議論を行います。これらの情報・議論に基づき、運用部門の担当者は各ファンドの運用基本方針、各運用戦略の投資プロセスに則り、最終的な投資判断を行います。



前記の運用体制等は、今後変更することがあります。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等を行っています。

委託会社の運用する証券投資信託は、2019年12月末日現在、次の通りです。（ただし、親投資信託を除きます。）

種類	本数	純資産総額
単位型株式投資信託	19	61,023 百万円
追加型株式投資信託	62	286,364 百万円
合計	81	347,388 百万円

### 3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づき作成しております。

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づき作成しております。

2. 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

3. 当社は、第34期事業年度（2018年1月1日から2018年12月31日まで）の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定により、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

また、第35期事業年度に係る中間会計期間（2019年1月1日から2019年6月30日まで）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定により、EY新日本有限責任監査法人により中間監査を受けております。

## 1. 財務諸表

## (1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第33期 (平成29年12月31日現在)		第34期 (平成30年12月31日現在)	
資産の部				
流動資産				
現金・預金	*2	887,338		1,425,655
前払金		-		4,981
前払費用		32,849		21,225
未収入金		234,786		135,017
未収委託者報酬		670,737		457,570
未収運用受託報酬		253,439		329,213
繰延税金資産		-		85,444
未収還付法人税等		-		67,765
未収還付消費税等		-		30,254
立替金		8,963		14,880
流動資産合計		2,088,114		2,572,009
固定資産				
有形固定資産				
建物附属設備	*1	36,172	*1	30,647
工具器具備品	*1	5,615	*1	7,041
有形固定資産合計		41,787		37,688
無形固定資産				
ソフトウェア		1,758		1,360
電話加入権		3,875		3,875
無形固定資産合計		5,634		5,235
投資その他の資産				
投資有価証券		87,915		2,770
関係会社株式		164,013		164,013
敷金保証金		98,648		109,117
預託金		74		74
投資その他の資産合計		350,651		275,976
固定資産合計		398,073		318,900
資産合計		2,486,188		2,890,910

(単位:千円)

	第33期 (平成29年12月31日現在)	第34期 (平成30年12月31日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
預り金	16,501	23,342
未払金		
未払収益分配金	1,692	240
未払償還金	3,500	-
未払手数料	318,692	172,561
その他未払金	186,770	227,732
未払費用	759,507	605,315
未払役員賞与	97,925	72,006
前受収益	893	-
未払法人税等	3,765	25,132
未払消費税等	451	16,468
賞与引当金	54,116	49,399
役員賞与引当金	20,525	9,092
流動負債合計	1,464,341	1,201,290
<b>固定負債</b>		
退職給付引当金	74,772	79,579
役員退職慰労引当金	2,618	3,398
固定負債合計	77,390	82,977
負債合計	1,541,732	1,284,268
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	500,000	1,000,000
資本剰余金		
資本準備金	31,736	58,876
資本剰余金合計	31,736	58,876
利益剰余金		
利益準備金	265,112	265,112
その他利益剰余金		
任意積立金	230,000	230,000
繰越利益剰余金	66,188	53,013
利益剰余金合計	428,924	548,126
株主資本合計	960,660	1,607,002
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	16,204	360
評価・換算差額等合計	16,204	360
純資産合計	944,456	1,606,642
負債・純資産合計	2,486,188	2,890,910

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第33期 (自平成29年 1月 1日 至平成29年12月31日)	第34期 (自平成30年 1月 1日 至平成30年12月31日)
営業収益		
委託者報酬	5,064,645	3,280,295
運用受託報酬	947,328	1,250,895
その他営業収益	219,447	292,479
営業収益合計	6,231,421	4,823,670
営業費用		
支払手数料	2,297,846	1,429,483
広告宣伝費	19,985	17,638
調査費		
調査費	728,225	572,127
委託調査費	1,312,909	944,075
営業雑経費		
通信費	13,476	11,849
印刷費	131,408	93,396
協会費	6,910	5,657
図書費	2,416	2,079
その他	-	8,858
営業費用合計	4,513,178	3,085,165
一般管理費		
給料		
役員報酬	41,442	38,600
給料・手当	706,267	713,849
賞与	163,198	177,256
役員賞与	82,628	63,396
賞与引当金繰入	54,116	49,399
役員賞与引当金繰入	20,525	9,092
交際費	1,770	1,916
寄付金	681	640
旅費交通費	23,187	20,906
租税公課	17,917	30,629
不動産賃借料	166,229	173,890
退職給付費用	38,267	41,517
役員退職慰労引当金繰入	796	780
固定資産減価償却費	7,405	6,820
業務委託費	323,460	280,550
諸経費	82,907	64,100
一般管理費合計	1,730,802	1,673,348
営業利益又は営業損失（ ）	12,559	65,156
営業外収益		
受取利息	168	38
受取配当金	32	16

為替差益	1,857	-
時効成立分配金・償還金	-	4,952
雑収入	127	632
営業外収益合計	2,186	5,639
営業外費用		
為替差損	-	4,862
貸倒損失	-	555
雑損失	4,154	594
営業外費用合計	4,154	6,013
経常利益又は経常損失（ ）	14,526	64,782
特別利益		
固定資産売却益	- *1	36
特別利益合計	-	36
特別損失		
固定資産除却損	- *2	111
退職特別加算金	8,904	-
投資有価証券償還損	-	18,163
移転価格調整金	- *3	67,765
特別損失合計	8,904	86,040
税引前当期純利益又は税引前当期純損失（ ）	23,431	21,220
法人税、住民税及び事業税	3,780	12,787
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	- *3	67,765
法人税等調整額	-	85,444
法人税等合計	3,780	140,422
当期純利益又は当期純損失（ ）	27,211	119,202



## (3)【株主資本等変動計算書】

第33期（自 平成29年1月1日至 平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本								評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	評価・換 算差額等 合計		
		資本準 備金	その 他資 本剰 余金	資本剰 余金合 計	利益準 備金	その他利益剰余金						利益剰 余金合 計
					任意積 立金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	500,000	31,736	-	31,736	265,112	230,000	38,977	456,135	987,872	19,379	19,379	968,492
当期変動額												
当期純利益又は 当期純損失（ ）	-	-	-	-	-	-	27,211	27,211	27,211	-	-	27,211
株主資本以外の 項目の当期間中の 変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,174	3,174	3,174
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	27,211	27,211	27,211	3,174	3,174	24,037
当期末残高	500,000	31,736	-	31,736	265,112	230,000	66,188	428,924	960,660	16,204	16,204	944,456

第34期（自 平成30年1月1日至 平成30年12月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本								評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	評価・換 算差額等 合計		
		資本準 備金	その 他資 本剰 余金	資本剰 余金合 計	利益準 備金	その他利益剰余金						利益剰 余金合 計
					任意積 立金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	500,000	31,736	-	31,736	265,112	230,000	66,188	428,924	960,660	16,204	16,204	944,456
当期変動額												
新株の発行	500,000	27,140	-	27,140	-	-	-	-	527,140	-	-	527,140
当期純利益又は 当期純損失（ ）	-	-	-	-	-	-	119,202	119,202	119,202	-	-	119,202
株主資本以外の 項目の当期間中の 変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,844	15,844	15,844
当期変動額合計	500,000	27,140	-	27,140	-	-	119,202	119,202	646,342	15,844	15,844	662,186
当期末残高	1,000,000	58,876	-	58,876	265,112	230,000	53,013	548,126	1,607,002	360	360	1,606,642

## 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)子会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2)其他有価証券(時価のあるもの) 期末の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)</p>
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1)有形固定資産 建物附属設備及び工具器具備品は定率法によっております。主な耐用年数は、建物附属設備5～15年、工具器具備品は5～15年であります。ただし平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。</p> <p>(2)無形固定資産 ソフトウェア(自社利用分)については、定額法により、社内における利用可能期間(5年)で償却しております。</p>
3. 引当金の計上基準	<p>(1)賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払いに充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。</p> <p>(2)役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払いに充てるため、役員賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。</p> <p>(3)退職給付引当金 従業員の退職給付の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末現在の退職給付要支給額を計上しております。 退職給付引当金の算定にあたり、期末自己都合退職金要支給額を退職給付引当金とする簡便法を採用しております。</p> <p>(4)役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末現在の役員退職慰労金要支給額を計上しております。</p>
4. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建資産及び負債は、主として当事業年度末現在の直物為替相場による円換算額を付しております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

## 注記事項

## (貸借対照表関係)

第33期 平成29年12月31日現在	第34期 平成30年12月31日現在
*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物附属設備 105,281 千円 工具器具備品 113,906 千円	*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物附属設備 110,806 千円 工具器具備品 108,607 千円
*2 信託資産 現金・預金のうち、10,155千円は、直販顧客分別金信託契約により、三菱UFJ信託銀行株式会社に信託しております。	

## (損益計算書関係)

第33期 自平成29年1月1日 至平成29年12月31日	第34期 自平成30年1月1日 至平成30年12月31日
-	*1 固定資産売却益は、工具器具備品36千円であります。 *2 固定資産除却損は、工具器具備品111千円であります。 *3 会社がアメリカン・インターナショナル・グループ(AIG)の傘下にあった平成18年3月期に納付済みの税金につき、税務当局より法人税等の還付を受けることが確定しました。この還付金は、会社が同グループから独立する際の合意により、AIGに帰属する取り決めであったことから、AIGに返還する費用として特別損失に計上しています。

## (株主資本等変動計算書関係)

第33期（自平成29年1月1日至平成29年12月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	41,000 株	-	-	41,000 株
合計	41,000 株	-	-	41,000 株

## 2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

第34期（自平成30年1月1日至平成30年12月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	41,000 株	1,000 株	-	42,000 株
合計	41,000 株	1,000 株	-	42,000 株

## (変動事由の概要)

平成30年2月22日付けの取締役会決議による普通株式数の増加 1,000株

## 2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

## (リース取引関係)

第33期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日	第34期 自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料  該当事項はありません。	オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料  該当事項はありません。

## (金融商品関係)

第33期（自 平成29年1月1日至 平成29年12月31日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用について短期的な預金及びグループ会社への貸付金に限定しております。

又、当社業務に関する所要資金は自己資金で賄っており、銀行借入れ、社債発行等による資金調達を行わない方針ですが、子会社への増資がある場合には、所要資金を当社親会社からの借入金により充当することがあります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金は銀行の信用リスクに晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。未収入金及びその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関に係る銀行のみで運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、投資信託又は取引相手毎に残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。又、未収入金は概ね海外の関連会社との取引により生じたものであり、定期的に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクについては、個別の案件毎に毎月残高照合等を行い、リスクを管理しております。

流動性リスク（支払期日に支払を実行出来なくなるリスク）の管理

当社は日々資金残高管理を行っております。又、月次で資金繰り予定表を作成・更新するとともに、手元流動性(最低限必要な運転資金)を状況に応じて見直し・維持する事等により、流動性リスクを管理しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
1)現金・預金	887,338	887,338	-
2)未収委託者報酬	670,737	670,737	-
3)未収運用受託報酬	253,439	253,439	-
4)投資有価証券	87,915	87,915	-
資産計	1,899,430	1,899,430	-
1)未払費用	759,507	759,507	-
2)未払手数料	318,692	318,692	-
負債計	1,078,200	1,078,200	-

（注1） 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

## 資産

1) 現金・預金、2) 未収委託者報酬、3) 未収運用受託報酬

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

4) 投資有価証券（投資信託）

投資信託は公表されている基準価額によっております。

## 負債

1) 未払費用、2) 未払手数料

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2） 子会社株式（貸借対照表計上額164,013千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

（注3） 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
1)現金・預金	887,338	-	-	-
2)未収委託者報酬	670,737	-	-	-
3)未収運用受託報酬	253,439	-	-	-
合計	1,811,515	-	-	-

第34期（自 平成30年1月1日至 平成30年12月31日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は資金運用について短期的な預金及びグループ会社への貸付金に限定しております。

又、当社業務に関する所要資金は自己資金で賄っており、銀行借り入れ、社債発行等による資金調達を行わない方針ですが、子会社への増資がある場合には、所要資金を当社親会社からの借入金により充当することがあります。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

預金は銀行の信用リスクに晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。未収入金及びその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関に係る銀行のみで運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、

投資信託又は取引相手毎に残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。又、未収入金は概ね海外の関連会社との取引により生じたものであり、定期的に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。

#### 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクについては、個別の案件毎に毎月残高照合等を行い、リスクを管理しております。

#### 流動性リスク（支払期日に支払を実行出来なくなるリスク）の管理

当社は日々資金残高管理を行っております。又、月次で資金繰り予定表を作成・更新するとともに、手元流動性(最低限必要な運転資金)を状況に応じて見直し・維持する事等により、流動性リスクを管理しております。

## 2.金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
1)現金・預金	1,425,655	1,425,655	-
2)未収委託者報酬	457,570	457,570	-
3)未収運用受託報酬	329,213	329,213	-
4)投資有価証券	2,770	2,770	-
資産計	2,215,209	2,215,209	-
1)未払費用	605,315	605,315	-
2)未払手数料	172,561	172,561	-
負債計	777,877	777,877	-

（注1） 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

#### 資産

1) 現金・預金、2) 未収委託者報酬、3) 未収運用受託報酬

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

4) 投資有価証券（投資信託）

投資信託は公表されている基準価額によっております。

#### 負債

1) 未払費用、2) 未払手数料

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2） 子会社株式（貸借対照表計上額164,013千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
1)現金・預金	1,425,655	-	-	-
2)未収委託者報酬	457,570	-	-	-
3)未収運用受託報酬	329,213	-	-	-
合計	2,212,439	-	-	-

(有価証券関係)

第33期 平成29年12月31日現在				第34期 平成30年12月31日現在			
1.子会社株式 (単位：千円)				1.子会社株式 (単位：千円)			
区分	貸借対照表計上額			区分	貸借対照表計上額		
子会社株式	164,013			子会社株式	164,013		
上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。				上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。			
2.その他有価証券で時価のあるもの (単位：千円)				2.その他有価証券で時価のあるもの (単位：千円)			
区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額	区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの				貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
投資信託受益証券	87,915	104,119	16,204	投資信託受益証券	2,770	3,131	360
3.当事業年度に売却したその他有価証券 該当事項はありません。				3.当事業年度に売却したその他有価証券 該当事項はありません。			

(退職給付関係)

第33期(平成29年12月31日現在)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定拠出年金制度および非積立型の退職一時金制度を採用しております。

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	千円
期首における退職給付引当金	79,386
退職給付費用	10,068
退職給付の支払額	14,683
期末における退職給付引当金	<u>74,772</u>

(2)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	10,068千円
----------------	----------

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、29,199千円でありました。

第34期(平成30年12月31日現在)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定拠出年金制度および非積立型の退職一時金制度を採用しております。

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	千円
期首における退職給付引当金	74,772
退職給付費用	11,098
退職給付の支払額	6,291
期末における退職給付引当金	<u>79,579</u>

(2)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	11,098千円
----------------	----------

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、30,419千円でありました。



(税効果会計関係)

第33期 平成29年12月31日現在	第34期 平成30年12月31日現在
1. 繰延税金資産発生 の 主な原因別内訳 (単位：千円)	1. 繰延税金資産発生 の 主な原因別内訳 (単位：千円)
繰延税金資産	繰延税金資産
未払金否認	未払金否認
21,403	26,659
未払賞与・賞与引当金否認	未払賞与・賞与引当金否認
78,673	81,911
退職給付引当金否認	退職給付引当金否認
42,090	24,370
役員退職慰労引当金否認	役員退職慰労引当金否認
801	1,040
前受収益	資産除去債務
273	20,951
資産除去債務	繰越欠損金
19,570	507,312
繰越欠損金	その他
521,880	12,257
その他	
35,676	
繰延税金資産小計	繰延税金資産小計
720,370	674,503
評価性引当額	評価性引当額
720,370	589,059
繰延税金資産合計	繰延税金資産合計
-	85,444
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳
法定実効税率	法定実効税率
30.9%	30.9%
(調整)	(調整)
交際費等永久に損金に算入されない項目	交際費等永久に損金に算入されない項目
1.2%	1.5%
役員賞与等永久に損金に算入されない項目	役員賞与等永久に損金に算入されない項目
80.7%	105.4%
住民税均等割	寄付金等永久に損金に算入されない項目
16.1%	99.9%
評価性引当額	法人税等還付金
47.1%	319.3%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	住民税均等割
0.3%	17.8%
その他	評価性引当額
4.2%	618.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正
16.1%	23.6%
	前期確定申告差異
	57.4%
	その他
	1.6%
	税効果会計適用後の法人税等の負担率
	661.7%

## (セグメント情報等)

第33期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日	第34期 自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日																																
<p>1.セグメント情報 当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載していません。</p> <p>2.関連情報 (1) 製品及びサービス毎の情報 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>委託者 報酬</th> <th>運用受託 報酬</th> <th>その他営 業収益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部顧客へ の営業収益</td> <td style="text-align: right;">5,064,645</td> <td style="text-align: right;">947,328</td> <td style="text-align: right;">219,447</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 地域毎の情報 営業収益 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日本</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">5,674,747</td> <td style="text-align: right;">556,673</td> <td style="text-align: right;">6,231,421</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。</p> <p>有形固定資産 全有形固定資産が国内に所在しているため、記載を省略しております。</p> <p>(3) 主要な顧客毎の情報 外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。</p>		委託者 報酬	運用受託 報酬	その他営 業収益	外部顧客へ の営業収益	5,064,645	947,328	219,447	日本	その他	合計	5,674,747	556,673	6,231,421	<p>1.セグメント情報 当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載していません。</p> <p>2.関連情報 (1) 製品及びサービス毎の情報 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>委託者 報酬</th> <th>運用受託 報酬</th> <th>その他営 業収益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部顧客へ の営業収益</td> <td style="text-align: right;">3,280,295</td> <td style="text-align: right;">1,250,895</td> <td style="text-align: right;">292,479</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 地域毎の情報 営業収益 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日本</th> <th>米国</th> <th>欧州</th> <th>中国</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">4,146,114</td> <td style="text-align: right;">355,400</td> <td style="text-align: right;">314,289</td> <td style="text-align: right;">7,865</td> <td style="text-align: right;">4,823,670</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。</p> <p>有形固定資産 本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。</p> <p>(3) 主要な顧客毎の情報 外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。</p>		委託者 報酬	運用受託 報酬	その他営 業収益	外部顧客へ の営業収益	3,280,295	1,250,895	292,479	日本	米国	欧州	中国	合計	4,146,114	355,400	314,289	7,865	4,823,670
	委託者 報酬	運用受託 報酬	その他営 業収益																														
外部顧客へ の営業収益	5,064,645	947,328	219,447																														
日本	その他	合計																															
5,674,747	556,673	6,231,421																															
	委託者 報酬	運用受託 報酬	その他営 業収益																														
外部顧客へ の営業収益	3,280,295	1,250,895	292,479																														
日本	米国	欧州	中国	合計																													
4,146,114	355,400	314,289	7,865	4,823,670																													

## （関連当事者情報）

第33期（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

## 1. 関連当事者との取引

## （1）親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス B.V.	オランダ、アムステルダム	千ユーロ 18	持株会社	被所有直接100%	-	-	-	千円 -	-	千円 -

## （2）財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス US LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 258,140	持株会社	-	あり	経営管理サービス契約	役務提供に対する対価受取*2	千円 466,582	未収入金	千円 38,274
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 2	投資運用会社	-	あり	一任契約サービス契約	役務提供に対する対価受取*2	千円 320,443	未収運用受託報酬	千円 66,004
								役務提供に対する対価受取*2	千円 149,246	未収入金	千円 76,716
								委託調査費の支払*3	千円 579,488	未払費用	千円 268,707
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド	イギリス、ロンドン	千スターリングポンド 200	投資運用会社	-	-	一任契約サービス契約	委託調査費の支払*3	千円 139,494	未払費用	千円 119,526
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・アイルランド・リミテッド	アイルランド、ダブリン	千USドル 369	投資運用会社	-	-	一任契約サービス契約	役務提供に対する対価受取*2	千円 112,142	未収運用受託報酬	千円 25,475

## （取引条件及び取引条件の決定方針等）

\*1 上記の表における消費税の取り扱いについては、国内取引については損益計算書項目は税抜き、貸借対照表項目については税込みで表示しております。尚、海外取引は全て免税取引となっております。

- \*2 役務提供に対する対価受取は、サービス契約に基づくオペレーショナル・サポート費用、法務費用等の相手先への配賦額であります。尚、配賦額については、当社と当社の親会社及び兄弟会社等のグループ会社との間で合意した合理的な計算根拠に基づいて決定しております。
- \*3 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連当事者に関する注記

### (1) 親会社情報

パインブリッジ・インベストメンツ・リミテッド(金融商品取引所に上場しておりません)

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス・(ホンコン)・リミテッド(金融商品取引所に上場しておりません)

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス・リミテッドSarl(金融商品取引所に上場しておりません)

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングスB.V.(金融商品取引所に上場しておりません)

### (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項ありません。

第34期（自平成30年1月1日 至平成30年12月31日）

## 1. 関連当事者との取引

## (1) 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス B.V.	オランダ、アムステルダム	千ユーロ 18	持株会社	被所有直接 100%	-	-	-	千円 -	-	千円 -

## (2) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス US LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 209,089	持株会社	-	あり	経営管理サービス契約	役務提供に対する対価支払*2	千円 386,161	未払費用	千円 78,482
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 2	投資運用会社	-	あり	一任契約サービス契約	役務提供に対する対価受取*3	千円 464,788	未収入金	千円 108,724
								役務提供に対する対価受取*3	千円 17,627	未収運用受託報酬	千円 8,510
								委託調査費の支払*4	千円 436,674	未払費用	千円 102,368
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド	イギリス、ロンドン	千スターリングポンド 200	投資運用会社	-	-	一任契約サービス契約	委託調査費の支払*4	千円 149,137	未払費用	千円 45,085
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・アイルランド・リミテッド	アイルランド、ダブリン	千USドル 369	投資運用会社	-	-	一任契約サービス契約	役務提供に対する対価受取*3	千円 311,531	未収運用受託報酬	千円 102,776

同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・アジア・リミテッド	ホンコン	千USドル 28,651	投資運用会社	-	あり	経営管理サービス契約	役員提供に対する対価支払*2	千円 57,546	未払費用	千円 19,928
								委託調査費の支払*4	千円 52,221	未払費用	千円 18,188

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- \*1 上記の表における消費税の取り扱いについては、国内取引については損益計算書項目は税抜き、貸借対照表項目については税込みで表示しております。尚、海外取引は全て免税取引となっております。
- \*2 役員提供に対する対価支払は、サービス契約に基づくテクノロジーサービス費用、オペレーショナル・サポート費用等の当社負担額であります。尚、負担額については、当社と当社の親会社及び兄弟会社等のグループ会社との間で合意した合理的な計算根拠に基づいて決定しております。
- \*3 役員提供に対する対価受取は、サービス契約に基づくオペレーショナル・サポート費用、法務費用等の相手先への配賦額であります。尚、配賦額については、当社と当社の親会社及び兄弟会社等のグループ会社との間で合意した合理的な計算根拠に基づいて決定しております。
- \*4 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連当事者に関する注記

### (1) 親会社情報

パインブリッジ・インベストメンツ・リミテッド(金融商品取引所に上場しておりません)

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス・(ホンコン)・リミテッド(金融商品取引所に上場しておりません)

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス・リミテッドSarI(金融商品取引所に上場しておりません)

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングスB.V.(金融商品取引所に上場しておりません)

### (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項ありません。

## ( 1株当たり情報 )

第33期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日		第34期 自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日	
1株当たり純資産額	23,035円51銭	1株当たり純資産額	38,253円38銭
1株当たり当期純損失金額	663円69銭	1株当たり当期純利益金額	2,849円88銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益額については、新株予約権付社債の発行がないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益額については、新株予約権付社債の発行がないため記載していません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定の基礎は、以下のとおりであります。

第33期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日		第34期 自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日	
当期純損失	27,211 千円	当期純利益	119,202 千円
普通株主に帰属しない金額	-	普通株主に帰属しない金額	-
普通株主に係る当期純損失	27,211 千円	普通株主に係る当期純利益	119,202 千円
普通株式の期中平均株式数	41,000 株	普通株式の期中平均株式数	41,827 株

## (重要な後発事象)

第33期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日	第34期 自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日												
<p>(株主割当増資に関する事項)</p> <p>当社は平成30年2月22日付けの取締役会決議に基づき、100%親会社であるパインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス B.V.に、株主割当増資を平成30年3月5日付けで実施致しました。</p> <p>1) 増資の目的 当社の財務基盤強化を目的としております。</p> <p>2) 増資の内容</p> <table> <tr> <td>発行株式の種類</td> <td>普通株式</td> </tr> <tr> <td>発行株式数</td> <td>1,000株</td> </tr> <tr> <td>発行価額 1株につき</td> <td>527千円</td> </tr> <tr> <td>発行価額の総額</td> <td>527,140千円</td> </tr> <tr> <td>資本組入額の総額</td> <td>500,000千円</td> </tr> <tr> <td>増資後の資本金</td> <td>1,000,000千円</td> </tr> </table>	発行株式の種類	普通株式	発行株式数	1,000株	発行価額 1株につき	527千円	発行価額の総額	527,140千円	資本組入額の総額	500,000千円	増資後の資本金	1,000,000千円	該当事項はありません。
発行株式の種類	普通株式												
発行株式数	1,000株												
発行価額 1株につき	527千円												
発行価額の総額	527,140千円												
資本組入額の総額	500,000千円												
増資後の資本金	1,000,000千円												

## 2. 中間財務諸表

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

第35期中間会計期間末 (2019年6月30日現在)	
資産の部	
流動資産	
現金・預金	537,309
短期貸付金	700,000
前払金	4,736
前払費用	42,082
未収入金	97,527
未収委託者報酬	439,187
未収運用受託報酬	275,087
立替金	3,830
未収収益	2,010
未収還付法人税等	14,478
流動資産合計	2,116,251
固定資産	
有形固定資産	
建物附属設備	*1 28,349
工具器具備品	*1 9,084
リース資産	*1 18,385
有形固定資産合計	55,819
無形固定資産	
ソフトウェア	1,161
電話加入権	3,875
無形固定資産合計	5,036
投資その他の資産	
投資有価証券	923
関係会社株式	164,013
敷金保証金	109,117
預託金	74
繰延税金資産	18,495
投資その他の資産合計	292,624
固定資産合計	353,481
資産合計	2,469,733



(単位:千円)

第35期中間会計期間末  
(2019年6月30日現在)

負債の部	
流動負債	
預り金	23,828
未払収益分配金	240
未払手数料	162,243
その他未払金	269,400
未払費用	326,599
未払法人税等	2,819
未払消費税等	*2 9,848
賞与引当金	195,596
リース債務	3,803
流動負債合計	<u>994,379</u>
固定負債	
退職給付引当金	75,966
役員退職慰労引当金	3,788
リース債務	14,936
固定負債合計	<u>94,691</u>
負債合計	<u>1,089,070</u>
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000,000
資本剰余金	
資本準備金	58,876
資本剰余金合計	<u>58,876</u>
利益剰余金	
利益準備金	265,112
その他利益剰余金	
任意積立金	230,000
繰越利益剰余金	173,213
利益剰余金合計	<u>321,899</u>
株主資本合計	<u>1,380,776</u>
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	113
評価・換算差額等合計	<u>113</u>
純資産合計	<u>1,380,662</u>
負債・純資産合計	<u>2,469,733</u>

## (2) 中間損益計算書

(単位：千円)

第35期 中間会計期間 (自2019年1月 1日 至2019年6月30日)	
営業収益	
委託者報酬	1,238,189
運用受託報酬	581,015
その他営業収益	95,715
営業収益合計	1,914,920
営業費用及び一般管理費	*1 2,067,435
営業損失( )	152,515
営業外収益	
受取利息	3,170
受取配当金	6
為替差益	4,310
雑収入	467
営業外収益合計	7,955
営業外費用	
支払利息	48
営業外費用合計	48
経常損失( )	144,607
特別損失	
退職特別加算金	15,435
投資有価証券償還損	31
特別損失合計	15,467
税引前中間純損失( )	160,075
法人税、住民税及び事業税	1,890
法人税等還付税額	2,687
法人税等調整額	66,949
法人税等合計	66,151
中間純損失( )	226,226

## (3) 中間株主資本等変動計算書

第35期中間会計期間（自2019年1月1日 至2019年6月30日）

(単位:千円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		株主資本 本合計	その他 有価証 券評価 差額金	評価・ 換算差 額等合 計		
		資本準 備金	資本剰余 金合計		任意積 立金	繰越利益 剰余金					利益剰余 金合計
当期首残高	1,000,000	58,876	58,876	265,112	230,000	53,013	548,126	1,607,002	360	360	1,606,642
当中間期変動額											
中間純損失（ ）	-	-	-	-	-	226,226	226,226	226,226	-	-	226,226
株主資本以外の 項目の当中間期 変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	247	247	247
当中間期変動額合計	-	-	-	-	-	226,226	226,226	226,226	247	247	225,979
当中間期末残高	1,000,000	58,876	58,876	265,112	230,000	173,213	321,899	1,380,776	113	113	1,380,662

## 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)子会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2)その他有価証券(時価のあるもの) 中間会計期間末日の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)</p>
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1)有形固定資産(リース資産を除く) 建物附属設備及び工具器具備品は定率法によっております。主な耐用年数は、建物附属設備5～15年、工具器具備品は5～15年です。ただし、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。</p> <p>(2)無形固定資産(リース資産を除く) ソフトウェア(自社利用分)については、定額法により、社内における利用可能期間(5年)で償却しております。</p> <p>(3)リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>
3. 引当金の計上基準	<p>(1)賞与引当金 従業員及び役員に支給する賞与の支払いに充てるため、賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。</p> <p>(2)退職給付引当金 従業員の退職給付の支出に充てるため、内規に基づく当中間会計期間末日現在の退職給付要支給額を計上しております。退職給付引当金の算定にあたり、当中間会計期間末日における自己都合退職金要支給額を退職給付引当金とする簡便法を採用しております。</p> <p>(3)役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当中間会計期間末日現在の役員退職慰労金要支給額を計上しております。</p>
4. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建資産及び負債は、主として中間会計期間末日の直物為替相場による円換算額を付しております。
5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

## 注記事項

## （中間貸借対照表関係）

第35期 中間会計期間末 2019年6月30日現在	
*1.有形固定資産の減価償却累計額	
建物附属設備	113,104 千円
工具器具備品	109,352 千円
リース資産	967 千円
*2.消費税等の取り扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺の上、未払消費税等として表示しております。

## （中間損益計算書関係）

第35期 中間会計期間 自 2019年1月 1日 至 2019年6月30日		
*1.減価償却実施額	有形固定資産	4,009 千円
	無形固定資産	199 千円

## （中間株主資本等変動計算書関係）

第35期 中間会計期間 自 2019年1月 1日 至 2019年6月30日				
1.発行済株式の種類及び総数に関する事項				
	当事業年度期首 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
普通株式	42,000 株	-	-	42,000 株
2.自己株式に関する事項		該当事項はありません		
3.新株予約権等に関する事項		該当事項はありません		
4.配当に関する事項		該当事項はありません		

## （リース取引関係）

第35期 中間会計期間 自 2019年1月 1日 至 2019年6月30日
ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 ・有形固定資産 主として、本社における複合機(工具器具備品)であります。 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

## （金融商品関係）

第35期 中間会計期間末（2019年6月30日）

## 金融商品の時価等に関する事項

当中間会計期間末における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
1) 現金・預金	537,309	537,309	-
2) 短期貸付金	700,000	700,000	-
3) 未収入金	97,527	97,527	-
4) 未収委託者報酬	439,187	439,187	-
5) 未収運用受託報酬	275,087	275,087	-
6) 未収収益	2,010	2,010	-
7) 投資有価証券	923	923	-
資産計	2,052,046	2,052,046	-
1) 未払手数料	162,243	162,243	-
2) その他未払金	269,400	269,400	-
3) 未払費用	326,599	326,599	-
負債計	758,243	758,243	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

## 資産

1) 現金・預金、2) 短期貸付金、3) 未収入金、4) 未収委託者報酬、5) 未収運用受託報酬、6) 未収収益  
 これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## 7) 投資有価証券（投資信託）

投資信託は公表されている基準価額によっております。

## 負債

1) 未払手数料、2) その他未払金、3) 未払費用

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）子会社株式（中間貸借対照表計上額164,013千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

## （有価証券関係）

第35期 中間会計期間末 2019年6月30日現在
------------------------------

## 1. 子会社株式

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額
子会社株式	164,013
合計	164,013

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

## 2. その他有価証券で時価のあるもの

(単位：千円)

区分	種類	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	投資信託受益証券	-	-	-
	小計	-	-	-
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	投資信託受益証券	923	1,037	113
	小計	923	1,037	113
合計		923	1,037	113

## (セグメント情報等)

第35期 中間会計期間

自 2019年1月 1日

至 2019年6月30日

## 1.セグメント情報

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 2.関連情報

## (1) 製品及びサービス毎の情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 地域毎の情報

営業収益

(単位:千円)

日本	米国	欧州	アジア	合計
1,666,845	105,874	120,163	22,036	1,914,920

(注) 営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## (3) 主要な顧客毎の情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益
FWD富士生命保険株式会社	224,648

(注) 外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上のものを記載しております。



## ( 1 株当たり情報 )

第35期 中間会計期間	
自 2019年1月 1日	
至 2019年6月30日	
1株当たり純資産額	32,872円 92銭
1株当たり中間純損失	5,386円 34銭
(注)	
1. 当中間会計期間の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、1株当たり中間純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
2. 1株当たり中間純損失の算定の基礎は、以下のとおりであります。	
中間損益計算書上の中間純損失	226,226 千円
普通株式に係る中間純損失	226,226 千円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳	-
普通株式の期中平均株式数	42,000 株

## ( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。 )または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。 )と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を損ねるため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

#### 5【その他】

##### (1) 定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

##### (2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。



## 第2【その他の関係法人の概況】

### 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

#### 1) 受託会社

名称及び資本金の額（2019年9月末日現在）

三菱UFJ信託銀行株式会社 324,279百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

#### 2) 販売会社

名称及び資本金の額（2019年9月末日現在）

株式会社広島銀行 54,573百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

#### 3) マザーファンドの投資顧問会社

名称及び資本金の額（2019年9月末日現在）

パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド 200千英国ポンド

事業の内容

主として、英国において、投資顧問業を営んでいます。

## 2【関係業務の概要】

#### 1) 受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

なお、信託事務の処理の一部について、後記の日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。

#### 2) 販売会社

当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の実行請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

#### 3) マザーファンドの投資顧問会社

ファンドの投資対象であるマザーファンドの投資顧問会社として、委託会社より当該マザーファンドの外貨建資産の運用指図に関する権限の委託を受け、運用に関する投資判断、発注等を行います。

## 3【資本関係】

#### 1) 受託会社

該当事項はありません。

#### 2) 販売会社

該当事項はありません。

#### 3) マザーファンドの投資顧問会社

該当事項はありません。

### 参考情報 再信託受託会社の概要

名称 : 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金 : 10,000百万円（2019年9月末日現在）

資本構成 : 三菱UFJ信託銀行株式会社46.5%、日本生命保険相互会社33.5%、  
明治安田生命保険相互会社10.0%、農中信託銀行株式会社10.0%

業務の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。



### 第3【その他】

1. 目論見書の表紙には、ロゴ・マーク、写真、キャッチコピーや図案を使用する場合があります、委託会社の概要等をあわせて記載することがあります。
2. 請求目論見書には信託約款の全文を添付します。
3. 有価証券届出書「第二部 ファンド情報」中の「第1 ファンドの状況」の詳細内容について、図表化、グラフ化して目論見書の関連箇所に記載することがあります。また、「運用状況」については、データを更新して記載することがあります。
4. 目論見書には、以下の趣旨の記載を行うことがあります。
  - (1) 投資信託は預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨
  - (2) 投資信託は金融機関における預金、あるいは保険会社における保険商品とは異なり、元本が保証されるものではない旨、および投資した資産の価値の減少を含むリスクは購入者が負うこととなる旨
  - (3) 証券会社以外で購入した投資信託は、投資者保護基金による保護の対象とはならない旨
  - (4) 当ファンドは、実質的に、新成長国が発行した国債等を主要投資対象として投資を行う旨、ならびに実質組入有価証券の価格下落や外国為替相場の変動の影響により基準価額が下落し、投資元本を割り込むことがある旨
  - (5) 商品内容の重大な変更を行う場合には、事前に受益者の意向を確認する旨
  - (6) 信託財産は受託会社において分別管理されている旨
  - (7) 購入に際しては交付目論見書の内容を十分に読む必要がある旨
  - (8) 請求目論見書は委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできる旨

## 独立監査人の監査報告書

平成31年3月19日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士 伊藤志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているパインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、パインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

2020年1月15日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士

伊藤 志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているパインブリッジ新成長国債インカムオープンの2019年5月28日から2019年11月25日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、パインブリッジ新成長国債インカムオープンの2019年11月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の中間監査報告書

2019年9月18日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 伊藤志保  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているパインブリッジ・インベストメンツ株式会社の2019年1月1日から2019年12月31日までの第35期事業年度の中間会計期間（2019年1月1日から2019年6月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

#### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、パインブリッジ・インベストメンツ株式会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2019年1月1日から2019年6月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。